

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会 報告書

第 14 号

巻頭言

2012 年度 第 58 回教職員修養会	1
2012 年度 第 17 回キリスト者教員研修会報告	31
2012 年度 第 38 回サマー・カレッジ報告	39
2012 年度 宗教活動報告	61

東北学院大学

巻頭言

宗教部長 佐々木哲夫

人よ、何が善であり、主が何をあなたに求めておられるかは、あなたに告げられている。

正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。

旧約聖書 ミカ書 6章8節

ミカが預言活動を行ったのは、紀元前八世紀、アッシリア帝国の侵略によって国家が滅亡する危機に直面していた時代です。しかし、神の民たちは、意外にも、自分たちの生き方に自信たっぷりでした。

何をささげたら神は満足されるだろうか。今年生まれたばかりの子牛か、幾千もの雄羊か、幾万の量のオリーブ油が滴り流れる穀物の供え物か、いやいっそ、自分の子供を人身御供としてささげようかと、民たちの自信はエスカレートするばかりでした。まさに、罪というべき傲慢さに陥っていたのです。

そのような民たちに冒頭に記した預言者ミカの言葉が告げられたのです。

正義を行うこと。

慈しみを愛すること。

へりくだって神と共に歩むこと。

これらは、決して目新しいことではなく、民たちのあるべき姿勢を思い出させるものでした。

正義を行うこととは、他者との関係においてのこと、

慈しみを愛することとは、神との関係においてのこと、

へりくだって神と共に歩むこととは、自分との関係においてのこと、でした。

預言者ミカは、民たちに、これらを思い起こして生きよと告げたのです。このような生き方こそ、後のない危機的状況においても揺り動かされることのない生き方だったのです。ミカという言葉は、旧約聖書に書き留められ、時代を超越し、国を超越し、今日にも語りかける言葉となりました。キリスト教の理念を基盤とする東北学院大学にも語りかけられている言葉です。

本報告書が神と共に歩む東北学院大学に貢献することを願うものです。

2012 年度
第 58 回教職員修養会報告

第 58 回東北学院大学教職員修養会プログラム

期 日 2012年8月30日(木)～8月31日(金) 1泊2日

会 場 宮城蔵王ロイヤルホテル

〒989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字鬼石原 1-1

TEL 0224-34-3600

主 題 『聖書に聴く』

講演題 『今、わたしたちに何が求められているか』

講 師 ロバート・ウィットマー氏(道北クリスチャンセンター館長、社会福祉法人道北センター福祉会理事長)

〔略歴〕1948(昭和23)年生まれ。1969年カナダ合同教会派遣宣教師として来日。

8月30日(木)

9:00 土樋キャンパス正門前バス出発

10:00 受付

10:30 開会礼拝

大学長挨拶

講師紹介

11:00 講師講演

12:25 オリエンテーション

12:30 昼 食

13:30 グループ懇談『講師講演をめぐって』

14:30 休憩、各部屋チェックイン

15:30 全体懇談

『『東北文学』につどった人々』

渥美孝子先生(教養学部教授)

18:00 夕 食

8月31日(金)

7:00 朝食

チェックアウト

9:00 朝 拝

10:00 全体協議・報告会

12:00 閉会礼拝

12:30 昼食

13:30 解散(ホテルをバス出発)

14:30 土樋キャンパス正門バス到着

主題講演

「今、わたしたちに何が求められているか」

ロバート・ウィットマー 先生

講師略歴

ロバート・ウィットマー 先生

◆講師略歴

1948年、カナダ・オンタリオ州に生まれる。現在63歳。

1969年、カナダ合同教会派遣宣教師として来日。1970年～1975年まで札幌市にある北星学園大学で英語教師として働く。1975年に名寄市にある道北クリスチャンセンターに赴任し、1980年より同センター館長を務める。『カナダ合同教会の挑戦～性の多様性の中で～』の翻訳や、日本のキリスト教関係の書物を翻訳し、海外に紹介する働きに長年従事している。

◆道北クリスチャンセンター（通称 道北センター）

1960年、カナダ合同教会の援助により、日本キリスト教団（酪農学園大学もキリスト教学校教育同盟加盟校として関連団体となっている）の農村センターとして名寄市に設立。酪農学園とも関係の深い「三愛塾運動」の道北拠点の一つ。ウィットマー宣教師はここで幅広く農業と食の問題に関わり、道北センター英語学園の活動、道北にある諸教会にも協力している。

主題講演「聖書に聴く」
『今、わたしたちに何が求められているか』

道北クリスチャンセンター館長
社会福祉法人道北センター福祉会理事長
ロバート・ウイットマー

今紹介を頂きましたロバート・ウイットマーです。今回の修養会のプログラムを見て、第57回ということです。いぶん長く続いているなど思いながら本来今年は第58回のはずだったと思われました。やはり、去年の3月11日の出来事を覚えずにおられません。東北学院大学が大きな被害を受けただけでなく、約1万6千人の人々が命を失い、数千人の人々が今も行方不明の状態で、そして33万人以上の人々が家に帰れないでいるという現実はみなさんにとって言葉にもならない重荷だと思います。日本の多くの人々、世界中の多くの人々が今もなおみなさんのことを覚えて祈り続けていると思います。

このような状況の中で第57回の修養会が開かれ、みなさんと共に「聖書に聴く」ということについて分かち合う機会が与えられ、心から感謝します。みなさんの期待に応えられるような話ができるかどうか分かりませんが、どうかしばらくの間耳を貸してください。

聖書とは何か

「聖書に聴く」ということについて考える前にまず聖書はどんな書物であるかを確認したいと思います。見てわかるように聖書にはいろんな種類の書物が含まれています。

律法（613の戒め）

詩（歌）

歴史（神がいることを前提とする歴史）（ドラマで満杯）

知恵の文学（ことわざなど）

預言者の言葉（具体的な状況の中で神の思い、神の言葉、神が望む世界を語る）

福音書（キリストと呼ばれるイエスのことを伝える）

手紙（教会に送られた手紙）

黙示文学（暗号で書かれている書物）

聖書はいろんな時代に書かれ、いろんな時代にまとめられています。キリスト教の聖書が最終的にまとめられたのは、紀元3世紀(議論は続くけれど)です。聖書は「神の言葉」と言うけれど、だからこそ危ない書物とも言えるかも知れません。

聖書には何でもあります。残酷な戦争もあれば、素晴らしい平和の幻もあります。性的暴行もあれば、素敵な恋愛もあります。破壊と裁きもあれば、回復とゆるしもあります。何でもあります。しかし、「神の言葉」と呼ばれているからこそ、「力」と「権力」をもつ者は自分の立場と考えを正当化するためにどのようにでも利用することが出来ます。

宗教とは何か

宗教の本来の目的は、生きる意味と生き方を教え、生きるための価値観を教え、人間とその他の被造物が今向かっている方向を教えるなどのものだと思いますが、実際に「命をもたらす」宗教と「死をもたらす」宗教があるのではないのでしょうか。分かりやすい例で言うとインドでガンジーが進めた宗教運動はインドの多くの人々に命をもたらしたと思います。逆にオウム真理教が1995年に起こしたサリンガスの事件が死をもたらす宗教の分かりやすい例だと思います。

どの宗教にも両方の可能性があると思います。では、キリスト教を歴史的に見てどうでしょうか。一人ひとりの価値が聖書に記されていて、教育、福祉、医療、人権、民主主義のルーツが聖書にあると思います。これは多くの人々に命をもたらすキリスト教の働きだったと思います。しかし、聖書に「選民」意識も記されています。例えば、北アメリカの先住民と聖書を大切にしていたヨーロッパ系の人たちとの関係においてヨーロッパ系の人たちが先住民の土地を奪う、文化を奪う、言葉を奪う、家族を奪う、命を奪うために選民意識が利用されました。さらに、「絶対」という概念も聖書に記されています。これによって自分の意見、自分の考えだけが絶対に正しいと思ってしまい、相手を否定する、対話の可能性を破壊してしまう可能性があります。歴史的にキリスト教が聖書を利用し、神は味方だと言って戦争を起こし、奴隷制度を肯定し、多くの人々に対する差別を行ってきたことは否定できない事実です。

宗教と「力」

私たちは聖書を読む時、真実と人を生かす命の言葉を求めたいと思いますが、知らない所で、意識していない所で私たちが「力」をもって人々と接していることがあります。わたしの貴重な経験の一つをみなさんと分かち合いたいと思います。1994年、95年私たちは宣教師の本国活動のために一年間カナダに住むことになりました。本国活動の間、教会を回って日本の活動報告をしますが、日本にいるより自由時間があり、本を翻訳する時間がとりやすい

ので、この時、私は宮島利光著の「チキサニの大地 ～アイヌ民族の歴史、文化、現状～」という本を英語に翻訳しました。アイヌ民族の歴史はカナダの先住民族と共通する所がたくさんあり、できればカナダの先住民の人たちにこの本を紹介する機会がほしいと教会に相談したらカナダ合同教会の先住民族の神学校でこの本を紹介する機会が与えられました。紹介する日が来ました。私は少しでもアイヌ民族とカナダの先住民族の共通の歴史を知り、連帯を生み出すきっかけとなればよいと思っていました。いわゆる「いいこと」をしようと思ってアイヌ民族の歴史と課題を伝えはじめました。うなずきながら私の話を聞く人もいましたが、途中である青年が立ちあがり、叫ぶように「あなたは日本で何をしているつもりだ！！あなたがたが私たちに対して何をしたかわかっているか???!!」と言いました。これからキリスト教の牧師になる先住民族の青年ですよ。私はものすごい衝撃を受けました。「いいこと」をしようとしているのに彼はなぜそこまで反発をするのでしょうか。そして、気づいたのです。私は白人であり、男性であり、クリスチャンであり、牧師であり、宣教師である — カナダの先住民族にとってこの一つひとつは「力」です。長い間、カナダの先住民族が私のような人に苦しめられたのです。私にとってはじめてカナダの先住民族と話をする場でしたから頭をさげて、ひざまずいて、謝罪をしながら、ほうようにその会場に入らなければならなかったのに「いいこと」をしようと思う「先生」という立場でした。「いいこと」をしようと思う「先生」と呼ばれている人たちにカナダの先住民族がどれだけ苦しめられたでしょうか。私にとって自分に気づく貴重な経験でした。その後、青年と分かち合う時間を持ち、お互いに少し理解し合い、抱きしめてお別れすることが出来ました。人と人が本当に出会うという意味をここで経験することができ、「力」をもつ危険性について学ぶ良い機会となりました。

聖書に「聴く」

さあ、聖書に「聴く」ということはどういうことかを考えましょう。聖書に「聞く」と「聴く」では意味が大きく違います。「聞く」は、聞こうとする意志がなくても自然に耳に入ってくるもの、一方の「聴く」は聞こう、理解しようという自分の意志を持って子どもが親の声を身を入れて聞くということです。「聴く」というのは英語で言うと listen(意志を持って耳を傾ける) comprehend(理解しようとする) embrace(自分のものにする) enact(表現する)ということです。私たちが聖書に「聴く」時、文字として書かれている言葉に秘められている「命の言葉」として受け止めるためにそこに書かれている現実を引き出して、それを自分がおかれている現実に照らし合わせながら神のみ心を求めるのです。カナダで会った先住民族の方がこう言いました。「私たちは聖書の中で自分たちの物語を読んでいる」。聖書に「聴く」時、聖書は私たちが今置かれている状況、神様が私たちに何を求めているか、そして神の新しい世界への道を指し示してくれると思います。

聖書のあちこちに「聴きましょう」

じゃ、どのような姿勢で聖書に近づいたらいいでしょうか。その姿勢を示すいくつかの箇所を紹介したいと思います。

【都に上る歌。ダビデの詩。】

主よ、わたしの心は驕っていません。わたしの目は高くを見ていません。
大き過ぎることをわたしの及ばぬ驚くべきことを、追い求めません。わたしは魂を沈黙させます。わたしの魂を、幼子のように母の胸にいる幼子のようにします。
イスラエルよ、主を待ち望め。今も、そしてとこしえに。

詩篇 131 旧約 p.973

「お前たちは、立ち帰って 静かにしているならば救われる。
安らかに信頼していることにこそ力がある」

イザヤ 30：15 旧約 p.1108

「力を捨てよ、知れ わたしは神」

詩篇 46：11 旧約 p.880

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」

マルコによる福音書 10：13～16 新約 p.81

聖書に「聴く」時、力を捨て、固定観念や先入観を捨て、母に抱かれている子どものようになれたらいいと思います。そして、赤ちゃんが親の声を聞き、それを理解しようとするように神様の生きた言葉を求めたらいいと思います。赤ちゃんが親の言うことをすぐに理解できないのと同じように私たちも一回でわかるのではないので「聴き続ける」ことが大切です。

イエスの福音とは何か

私たちは聖書を読む時、イエスキリストの福音をより深く理解することが大きな目的の一つであると思います。イエスキリストの福音は“happy sound”つまり嬉しい知らせじゃなければ福音とは言えないと思います。その福音の意味は聖書のいろいろの所に記されています。たとえば、

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書 3:16 新約 p.167

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、『この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した』と話し始められた。」

ルカによる福音書 4:18～21 新約 p.108

この二つの箇所には神の愛とその愛を具体的に示す行為が記されていると思います。世の中はたくさん矛盾や苦しみに満ちています。世界のあちこちで不正が行われ、人々が犠牲になり、差別を受け、また虐げられています。納得できない現実はいくらでもあります。しかし、私たちがイエスの福音を求めて、聖書を読むなら、私たちはこの問題だらけの世の中で神の愛を証し、イエスが示した行動をイエスと共にします。暗闇の多い世の中で私たちは様々な形と方法で“happy sound”（嬉しい知らせ）を世の人々に届けるようにしようとします。

私の大好きな聖書の箇所もう一つ紹介します。

「人よ、何が善であり主が何をあなたに求めておられるかはあなたに告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。」

ミカ書 6：8 旧約 p.1456

私たちに「大きすぎること」「驚くべきこと」は期待されていません。「正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと」。神様は私たちに求めていることはこれだと聖書は

語っています。

自分の経験の中から → 今、わたしたちに何が求められているか

今日はどうしても去年の地震、津波、原発の事故が頭からまた心から離れませんので、私が働いている現場からの話を質疑応答の時にし、福島事故についての詩をみなさんに紹介したいと思います。この詩は福島県出身の齊藤貢さんという方が作った詩です。この詩は希望を求めているのですが、希望を持っていいのだろうかという問いかけもしています。人間は希望なしに生きられませんが、すべてを失った人たちはどこに希望を見出すのでしょうか。東日本の多くの人たちがそう思っているのではないのでしょうか。人を生かす希望は「一人じゃないよ」「神様の愛が働いているよ」「神の愛を信じていいよ」という確信から生まれると思います。多くの苦難を経験したパウロは聖書の中で自分自身の確信についてこう書いています。

「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大なるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙一13：13 新約 p.317

「だれがわたしたちを罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。『わたしたちは、あなたのために一日中死にさらされ、屠られる羊のように見られている』と書いてあるとおりです。」

しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」

ローマの信徒への手紙8：34～39 新約 p.285

手紙を書いたヨハネも神の愛についてこう書いています。

「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神か

ら生まれ、神を知っているからです。

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」

ヨハネの手紙 一 4：7、8 新約 p.445

「互いに愛し合いましょう」は今の私たちに対する呼びかけではないでしょうか。イエスはすべての人を生かす神の愛を伝えました。今叫ぶことしか出来ない希望を失っている人々に対して、聖書に「聴く」私たちがその愛を具体的な形で示す働きに参加するように招かれています。

日本でよく「頑張る」という言葉が使われます。特に震災と原発事故が起こった後、「頑張れ日本」という呼びかけが目立ちました。テレビに出る人のほとんどが震災と原発事故の被災者に「頑張って」という言葉を送りました。被災者たち自身もよく「頑張ります」という言葉を口にしていたいました。私はどうしても「頑張れ」という言葉に引っ掛かります。勝負の付くスポーツの話なら「頑張って」はぴったりの言葉かもしれませんが、理由もなく言葉にもならないほど大きな苦しみを強いられている人たちに向かって言えません。そこで、日本のテレビに私と同じような思いの人が言いました「私は被災者に『頑張って』と言いません。精一杯甘えてくださいと言いたいです」。この言葉が私の心に残り、聖書の中でこの思いがどこにどのように表現されているのかなと考えました。その時に与えられた言葉はイエスがマタイによる福音書 11：28 で語った言葉です。この言葉が歌となり、去年名寄幼稚園の子どもたちと一緒に歌い、数多くの教会集会でも歌いました。すべての被災者がこんな大変な時に安らぎを得られることを願って歌いたいと思います。

つかれはてているもの	わたしのもとにきなさい
おもにをせおっているもの	わたしのもとにきなさい
やすませてあげよう	やすませてあげよう
わたしのもとにきなさい	

さいごに

みなさんは私の話を聞いてどうだったでしょうか。つまらない話だと思っている人もいるかも知れませんが、訳のわからない話だと思っている人もいるかも知れません。もし、全くピンとこない話だったとしても持って帰ってほしいもの一つだけあります。最後のスライドには鷺の羽のペンダントがあります。



これはカナダの先住民族の女性からいただいたプレゼントです。鷲は先住民族にとって「愛」を象徴するもので、鷲の羽を持つ者は真実を語り、そして心から語らなければならないという条件があります。それを忘れないように人の前で話をする時にこのペンダントを身につけます。今日はみなさんにとって私の話がおかしいとかくだらないかと思ったとしても私自身は真実だと思っていることを本当に心から話そうとしたことを伝えたいです。それだけでも持って帰ってくれるなら嬉しいです。長い時間本当にありがとうございました。

思うに、希望とは

この地上の、楽園で生きる。

未来がすでに、断たれていたとしても。

希望とは、思うに任せない未来への

苛立ち、と。

あきらめ、と。

絶望、と。

地震に。津波に。放射線に。

地上の楽園を追われて

もはや、ここには誰も戻れなくなった。

ここには、ひかりが、届かない。

ことばが、ひとや土地を、傷つける。

ここは、苦痛にゆがんだ土地。

ここは、ひかりが失われた場所。

どうして、ここを故郷と呼べるだろうか。

どうして、ここを楽園と呼べるだろうか。

ここは、いのちの土地ではなく

償いは、死によって、痛みによって、

もたらされる。

未来をいま、わたしたちは、試されていて。

希望が、徐々に輝きを増すひかりならば

明日のひかりは、ここでふたたび輝くのだろうか。

故郷よ。楽園よ。

思うに、希望とは、未来への、天空を

渡るかぎり。

ひとが歩けば、ひかりが満ちあふれて

故郷の、楽園の。

やがては、そこが地上の道となるのだろうか。

苦しみの、悲しみの、悦楽の、安息の。

そこが、地上のままぼろしの道となるのだろうか。

佐藤貢 福島県出身

脱原発・自然エネルギー218人詩集より

全体懇談

「『東北文学』につどった人々」

教養学部教授 渥美孝子

『『東北文学』につどった人々』

教養学部教授 渥美 孝子

みなさんこんにちは。教養学部の渥美です。先ほどから会う方々に楽しみにしていますと言われ、どんどん心臓が痛くなってきました。今日は『東北学院資料室』9号と11号に書きました内容のダイジェスト版のようなお話しをさせていただきたいと思っております。

まず初めに『『東北文学』につどった人々』を書いた経緯です。今から十年前、2002年にお電話をいただきました。その年は島崎藤村の没後60年目でした。藤村の出身校である明治学院、藤村記念館、仙台文学館など、縁のあるところでは合同企画をするのですけれども、東北学院に何か予定はありますかという内容のお電話でした。そのことを図書館長でいらした香坂先生にお話しをしたのです。軽い気持ちで話したら、香坂昌紀先生がもう即答で、やりましょうとおっしゃいました。それから、あれよあれよという間に委員会が立ち上げられ、東北学院でも島崎藤村についての特別展示をすることになりました。そのとき、私は、東北学院に資料室があることすら知りませんでした。どんな資料があるのかも知りませんで、とにかく図書館の方、資料室の方、先生方、外部の方、いろいろな方のご協力をいただいて、作成したのがこの『島崎藤村と東北学院』という図録でした。

その時、東北学院学内冊子の『東北文学』などを見まして、随分東北学院から逸材が輩出されていたことを知りました。それだけでなく、学院に在籍した人たちが、その後時代のうねりと合わせて交錯していく様子を大変興味深く拝見し、いつかまとめたいと思いました。そのようなところに原稿依頼が来まして、『『東北文学』につどった人々』を連載させていただきました。そのような題名にしましたのは、『東北文学』という雑誌に投稿している人たち、あるとき偶然に東北学院という場所に身を置いた人たち、東北学院の生徒、先生、卒業生、など様々な人たちに触れるには、大雑把な括りとして『『東北文学』につどった人々』とするのが良いと考えたのです。『東北文学』は、東北学院関係のことを調べるには貴重な大結晶です。いつか明治の分だけでも、戦後まで続くものですが、明治の分だけでも目次にまとめたいと思っています。

まず、資料1の一番左の列をご覧ください。明治19年に仙台神学校が創立され、明治22年に仙台神学校文学会が発足します。その機関誌として、24年頃に『仙台神学校文学会雑誌』

が作られました。これは手書きです。たった1冊です。現存のものも、24年4月の1冊のみです。同じ年の9月に学校の名称を東北学院と改称しましたので、雑誌も『東北学院文学会雑誌』に変えられます。ここまでは手書き、さっき言ったように皆で書いて綴じて、それを食堂のところかなんかにおいて皆で読むという、そのような回覧雑誌でした。それが26年の10月から『東北文学』と名前を改め、活字印刷の雑誌として発布されることとなります。『東北文学』と同じ名前の雑誌は実はもう一つあり、河北新報社から出されております。それは、昭和21年からですが、太宰治らが書いていてちょっと有名でよく間違われるのですが、学内誌の『東北文学』は、文学という名前がついていますけれども、明治の頃の「文学」という日本語は大変広い意味が込められており、「学問」もしくは今でいう「文系」の意味合いで使われていた、と受け止めていただきたいと思います。掲載されているのは、生徒の作品から教授たちの論文まで様々です。

『東北文学』の意義の1つは、藤村の翻訳や文章が綴られていることです。藤村の東北学院赴任は、明治29年の9月でしたが、伝説の仙台行と言われるほど文学史的に大きな出来事でした。藤村の明治26年のところを見てください。佐藤輔子は、明治女学校での教え子ですが、すでに婚約者がおりました。自分の愛をどうすることもできずに明治女学校を辞め、教会の籍も抜き、10ヶ月に及ぶ放浪の旅に出ます。戻ってきますと、明治27年のことですが、明治27年の5月に北村透谷が自殺するという大変衝撃的な事件が起きました。大親友の北村透谷、文学の道においても深い係りをもったその北村透谷が27年5月に亡くなります。ちょっと余談になりますが、透谷は自殺する前に多分押川方義に会っているはずですが、それは、置いておきましょう。お兄さんの事件があり、また、経済的逼迫がありました。さらに、輔子は嫁いだ後亡くなってしまいます。明治女学校が火事になり、実家も消失しております。とにかく次から次へと打ちのめされることが起こったわけです。そうした苦しい状況の中で、東北学院の教師の話があって、仙台にやってくることとなります。

資料4をご覧くださいなのですが、右側の一番下のところ、藤村の『『若菜集』時代』から引用したものです。前から5行目です。「あの仙台へついてからといふものは、自分の一生の夜明けがそこではじまって来たやうな心持を味ひました」と書いています。「実際、仙台での1年は、楽しい時であったと思ひます。私はそれまでに経験して行つた劇しい精神の動揺をも、それを思ひおこすこともできるやうな静かなところへやうやくのことで自分の身を置きえたやうな心持でした」言っています。藤村は、仙台に行つて夜が明けたこと、もしくは、初めて自分の上にも太陽が昇ることがあるのだということを仙台で感じた、そのような夜明けの気持ちを藤村はあちこちに繰り返し書いております。そして、この仙台の地でほとぼしるように詩が湧いてきたと言います。それが『若菜集』にまとめられるのです。

資料1に戻っていただきたいと思います。『若菜集』は、明治30年、東北学院を辞職した

後の8月に刊行されています。『若菜集』は、日本近代詩にとってもあけぼのを告げるものでした。明治になって西洋の詩という新しいジャンルが入ってきてまだ間もない時に、初めて日本語による完成度をもった詩集として刊行された『若菜集』の意味は深いと言われています。藤村はその後小諸に移り、明治39年に『破戒』を発表しました。実はその前の38年に、東北文学の編集委員に宛てて、東京に住まいを移したことで、今大作を執筆中で、来週には出版する予定だということを書き送っています。藤村はわずか10ヶ月しか東北学院にいなかったわけですが、その10ヶ月の仙台時代がその後の自分を支えてくれたことをよく書いています。

岩野泡鳴もまた東北学院時代を語り続けた作家です。岩野泡鳴は詩人として出発して、その後42年に小説を発表し、自然主義作家としての立場を固めます。泡鳴が仙台にやってきたのは24年ですから、仙台神学校時代です。本人は教師になるつもりでやってきました。しかし、1年に編入となりました。本人は、「1年級に放り込まれた人間は僕より他にあるまい」といばって書いてありますが、泡鳴は東北学院の創始者である押川方義を大変慕っておりました。第二の父と言っていました。だから多分言うとおりになっていたのだと思います。資料4の右側に岩野泡鳴の『追懐』の中から抜きだしたものがあります。1行目です。「仙台は小生第二の故郷なり、小生の思想には、在仙中の事件は全く抜き取り難き根を生じ居り候」と言っています。第二の故郷であり、自分の根っこはここにあると言っています。後ろから5行目、「失恋の時代、煩悶の時代」とも言っています。エマーソンばかり読んでいたことも書いてあります。東北学院では、明治の24年ですから、新体詩をまだ知らない同級生たちに向って、新体詩を語り得意になっていたり、あるいは竜ノ口のところで自殺をしそうになったりなど、まさに「修行の時代」で色々出来事がありました。

資料4の一番上に栗原基が泡鳴についての思い出を書いています。これも読んでみたいと思います。前から10行目です。「或る夏泡鳴の家を訪問致しました所が驚くべし、ホームアのエアードを原文で読んでおつた。或る時はゲーテのフアウストを原文で読んでおつた。汗を流し流し読んでおつた」と書かれています。泡鳴は途中からまったく授業に出なくなっていて、朝から晩まで机に向って何か読んでいる、お風呂も1ヶ月に1回ぐらいしか入らないので有名だったと、そのような逸話を残しております。もう一度資料1に返っていただきたいのです。年表を見ていただくと四角で囲んだところ、栗原が東北学院に在籍していた期間ですが、岩野泡鳴や押川春浪や佐藤迷羊と重なっています。

押川春浪は押川方義の長男です。明治学院に入るのですが、野球にばかり熱中し、2度も続けて落第したものですから父親に呼び戻されて自分の学校に入れられました。東北学院に来てもう悪戯ばかりしていたのですね。それで、悪戯が過ぎて、とうとう父親から出て行けと言われることになり、学校遍歴を重ねます。札幌農学校、上京して水産伝習所、その後

講習所になりましたが伝習所時代に入ったと思います、この伝習所では岩野泡鳴が自宅に彼を預かっていたとも言われております。東京専門学校、今の早稲田大学になりますが、その東京専門学校でようやく落ち着きます。その在学中、明治33年に書いた『海底軍艦』という冒険小説が、大きな反響を呼んで作家生活に入ります。少年向けの冒険小説あるいは日本で最初のSF小説と評されています。そういうものを書いて随分当時は人気がありました。今でもマニアといわれる方々がいらっしゃるようです。

佐藤迷羊、この方は明治30年代の初めに一時期小説家として文芸誌に名前を飾りました。しかし、今ではほとんど知る人のない群小作家で終わってしまった人です。ただその功績として忘れられないのは、ポーランドの作家のシェンキエヴィチの『クオヴァイデイス』を紹介したことです。『東京独立雑誌』に掲載しました。この佐藤迷羊のことを木村久一が、資料5で触れております。「故人の思い出 佐藤迷羊さん」に『クオヴァイデイス』について書かれています。『クオヴァイデイス』について簡単に申しますと、キリスト教徒を弾圧した、皆さんご存知かと思いますがネロ皇帝の時代を舞台とした小説です。その経緯についても書かれています。もし興味がありましたらお読みいただきたいと思います。4段目です。なぜ佐藤迷羊と木村久一が出会ったかは、4段目の前から7行目です。「労働会で同じ釜の飯を食った小松謙助君に会い—その頃小松君は黒岩涙香の万朝報の記者をしていたが、彼から万朝報には、もう一人学院出身の記者がいることを聞いた。それが佐藤迷羊こと、佐藤稠松さんであつた。これは「しげまつ」と読むのが本場で、SS生と称した所以である」と書いてあります。明治41年のところに万朝報社入社と書いてあります。この後、42年頃小松謙助に会って、木村久一が会ったのは昭和初め頃だっただろうと思います。佐藤迷羊と押川春浪の意外な関係もまたちょっと見えてきます。明治34年6月のところ。春浪が出した本が『航海奇譚』に付録として佐藤迷羊の短編を掲載しています。佐藤迷羊、その時渡米中でした。アメリカにいたのですけれど彼の小説を載せている。栗原基も往年岩野泡鳴からイギリス詩人の解説書を作ると、その時に協力してもらえないかと頼まれて大変に嬉しかったと娘さんに語ったとあります。

この栗原基について資料を入れられなかったのですが、栗原基についても簡単に申し上げたいと思います。明治25年です。東華学校が閉校ということになりましたので、東北学院に編入してきた人です。栗原については一般に東北学院時代よりも二高時代のことがよく知られております。同級に内ヶ崎作三郎、その下に吉野作造らがおりました。彼らを、尚綱女学校の校長のズエル女史のバイブルクラスに誘って、彼らのキリスト教入信に非常に影響を与えたことでよく知られている人物です。栗原は非常に熱心なクリスチャンでした。吉野らをただ入信に導いただけでなく、栗原は表立って活動することはなかったのですが、大正デモクラシーに関わった人々を影で支えた人物と言えます。高等師範学校に赴任し、そこで年

表は終わっていますが、やがて京都に移ります。京都のYMCAキリスト教青年会の総主事を経て、第三高等学校の教授になります。第三高等学校でもYMCAキリスト教青年会の初代代表を務めます。この学生キリスト教青年会は、ほぼデモクラシー運動の温床の様相を呈していました。栗原はそのような学生達を暖かく見守り、理解者として振舞ったんですね。このときに学生たちを讀者とする『黎明』という雑誌を出し、吉野作藏、内ヶ崎作三郎、小山東助らにも執筆を依頼したということです。大正末年に、京都学連事件が起きます。治安維持法第1号の事件です。この時に、検挙された学生たちの釈放に奔走いたします。そのようなことに栗原は関わっていたのです。そのためつねに警察がつきまわっていて、恐らく三高でも教授から講師に格下げになったと思うのですが、それに毅然と耐えて、ずっと支え続けた人物です。

さて、今日の話の中心ですが木村久一についてのことになります。資料2をご覧ください。木村久一はその下の方に、昭和6年のころ、大百科事典と書いてありますが、百科事典の木村久一として知られています。しかし、大正デモクラシーの人物としてもっと評価されてしかるべきでないかと思われる人物です。その木村久一が東北学院に入学したのは明治33年です。東北学院の労働会は、働きながら勉強のできる組織でした。働きながら勉強できるというのが魅力で東北学院に入学します。普通科から専門部に進みます。サイプル博士のヘルパーなどをしながら語学力を随分身につけたようです。文科時代に『東北文学』の編集兼発行人になります。この文科時代とその後ですね、東北学院の英語教師を務めるわけですがそのときに書いたものについてちょっと触れたいと思います。

資料の4です。左側の東北学院時代です。これらを読みますと、木村の生涯の核がまさにここにあったことが見えてくると思われます。最初の論文の「ロバート、ブラウニングを論ず」は、非常に広い英文学の知識を動員しながら、イギリスの詩人ブラウニングの詩を論じたものです。ブラウニングを非常に高く評価しています。その評価の中心は、ブラウニングが「宗教的思索」を土台としていることです。木村久一は「真詩の宗教的思索を離れては到底不可能」と考える人でした。ですから、当時隆盛のいわゆる自然主義文学は、彼には認め難いものでした。1907年の「小説と科学の交渉につきて」は、自然主義の『マニフェスト』からのゾラの実験小説論を否定したものです。その下ですね、1909年「英文学史の教訓(再び自然主場文学を難ず)」は、日本の自然主義は肉情挑発的な醜い文学にすぎないと切り捨てています。ただし、それらの実験小説論を否定いたしましたけれども、文学と心理学の交渉に着眼していくことになります。そして心理学者としてのウィリアム・ジェームズに注目し、そのウィリアム・ジェームズは哲学者ですけれど、ウィリアム・ジェームズについて思想の概要をまとめたのが「プラグマティズムとは如何なることか」で、その内容は省略しますがとても大変大きな論文です。『河北新報』にも取り上げられました。

その後、1909年「エンスウジャムズを論ずードンキホーテ式スピリットの足らざる人々にさゝぐー」とありますが、ドンキホーテ・タイプの間人は心理学上のサビステビリティ、暗示感性の強い人であると評し、イモを食っても肉を食った気でいられる、自分の妻は絶世の美女だとか、自分の仕事ほど面白い仕事はないだとか、そう思って幸福に暮らせるというようなドンキホーテ式スピリットのすすめを青年に向かって語ったものです。ずっと見てくると文学から心理学への構図が見えくると思います。資料2の方に戻りますが、明治42年、東京帝国大学文科大学哲学科に入り、心理学を専攻することになります。資料の4に戻っていただきたいと思います。帝大在学中から木村久一は旺盛な寄稿を重ねます。その中に1912年の「精神分析法の話」があります。フロイトとそれ以降の精神分析学を日本へ紹介したのものとしては最も早い方に属すると注目されています。木村久一は、東京帝大の教授たちの語っている心理学は随分古いと考えていたようで、自ら色々あちこち漁って紹介しています。

雑誌の『心理研究』は、日本で初めての心理学専門の雑誌です。精神分析学の紹介と同時に、「天才教育論」あるいは「英才教育の話」というようなものが出てくるのですが、『早教育と天才』という本にまとめる仕事にも着手しています。帝大を卒業した後、木村は麻布中学校の教師となります。この時期に書いたものを大きく分けると4つです。1つはやはり心理学の分野です。それから教育、文学、そしてデモクラシーと分けることができます。心理学に関する専門的研究の代表的著作と言いますと、1914年、『精神とは何物なりや』5巻が連載されました。これは卒論を基に書いたもののようです。それから、もう1つ教育の方で言えば、右側の真ん中、1917年のところで上から7つ目ぐらいにあります。『早教育と天才』が刊行されています。この本ですが、きっかけは彼自身が書いていることによりますと、大学に入学した年にアメリカの週刊誌を読んでいたサイディス少年という15歳でハーバード大学を卒業した少年の話が載っていて、それに興味を持ち、それでアメリカにいる友人にこのサイディス少年の父、サイディス博士の著書『俗物と天才』を送ってもらった話があります。資料の2の右側です。サイディス『俗物と天才』の紹介があります。天賦、もって生まれた子供の能力を生かすために早教育の必要性を説くだけでなく、F. ゴールトンのいわゆる人種改良論を批判する意図があったようです。教育の価値については、それまでは遺伝主義でしたが、それと逆の方向を強調した、それが早教育、遺伝子に対して環境を重視する考え方、それを日本に紹介したのが木村久一であるといわれています。

文学の分野で言いますと、資料の4になります。彼は小説を書いております。いくつか取り上げます。1915年の最初に「主の嘆き」、その下に「古井戸物語」「宮参り」、1916年の4行目あたりに「ユダ」が書かれています。これは芥川龍之介の切支丹物を思わせるようなところがあります。キリスト教の人物にまつわる物語、あるいは信仰を核にした短編です。芥川

ほどあくどくないです。あくどくないという言い方は変ですけども、もっと柔らかい文体で書かれています。恐らく東北学院時代の主張であったロバート・ブラウニングを論じた時ですね、宗教的思索を土台とする文学というものの彼なりの実践だったろうと思われます。それから文学関係で言いますと、1915年の下の方に「学者の領分」があります。岩野泡鳴の離婚・結婚問題について、結婚・離婚問題、早く言えばふしだらな男女関係です。それに対して学者たちが非常に物分りの良い態度をとった、小説家なんてそんなものでしょうみたいな態度をとった。それに対して嘸み付いたのです。彼らは道德気風に欠けた穩健病だと非難しております。

そのあとで、文士の品性論をやっています。右側の2行目に入りました。「文士過剰論」では文士の品性を問題としています。これもまた自然主義批判とともに学院時代から一貫しているものです。デモクラシーに関する発言については資料の3をご覧ください。「デモクラシーについての発言は、吉野作造の『憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず』を承けて開始される。2月12日、第四十回心理学通俗講話会において、木村は吉野作造に対する深い尊敬の念を示しながらも、あえてこの吉野の論を踏み台として『心理学上の』議論をすとして、自己の見解を述べた。その講話の談話記事が『民本政治の心理』であり、講話の内容を原稿に起こしたのが『デモクラシーの心理』である。吉野はデモクラシーの二綱領として、第一に民本政治の目的が『人民の利益幸福』のためでなければならず、第二に政策の決定は『人民の意向』によるものでなければならぬと言っており、これはリンカーンの演説を想起させる。しかしながら、吾々心理学者から見れば、デモクラシーの一番大切な要領は、政治学者の見解とは反対に、for the people と云ふ事ではなくて by the People と云う事であると述べる。なんとならば、人間は成長する生きものだからである」というのが木村の言い方です。

「モンテッソリーの著作に、バケツに砂利を入れる遊びをやめようとしないうちの子供を連れて帰ろうとして、バケツを砂利で満たしてやる乳母の話が書かれているが、それが子供の望むところでないように、無意識のうちに自分の能力の生長発達を求める本能の衝動を見逃して、どんな上からの仁政をしても人民を満足させることはできない。人類の歴史が解放運動の歴史であることも、そうした人間の心理に由来する。したがって、たとえ『人民の利益幸福』の為の政治であって、それが『永久に保証』されていたとしても、その政治が少数の特殊階級の行うものであれば、それは悪政である、と断じている。『心理研究』に発表した『デモクラシーの心理』では、さらに『後記』が付されていて、天皇親政を主張する上杉慎吉の論に対して、人民が自身で国務を処理して、敢て君主に世話や厄介をかけないでこそ、結構な国民ではないかと反論し、民主主義すなわち政党政治でなければならぬと説いている。吉野作造はこの木村の主張を受け入れて、深くその『示教に感謝する』と応え、自己の論の修正を行った」と記

しました。

だいたいこういう発言です。この発言を皮切りにしてデモクラシー運動の発展に身を投じていくことになります。その舞台の1つを提供したのが星島二郎の『大学評論』という雑誌です。資料2に行っていたいただきたいと思います。右側のページです。星島二郎の回想を転載しました。「明治四十五年、東京定刻大学法科に入学のため上京したが、石井十次翁の勧めにより阿部磯雄先生や内ヶ崎作三郎先生のやっておられたユニテリアン教会に入会した。さらに帝大基督教青年会宿舎に入舎し、千駄木町の寮に入り、木村久一・森戸辰男・橋本寛敏・古野周蔵・山本亀一君などの諸君と同宿の時もあった」とあります。木村久一それから橋本寛敏もまた東北学院の出身の人です。橋本寛敏は医者の方に進みました。聖路加病院の医院長になった人です。あの100歳で現役医師の日野原重明先生は、彼の薫陶を受けた思い出を書いています。左の方の年表をご覧ください。大正3年のところになりますが、12月星島二郎と追分に一軒家を借りて住みます。これがのちの大学評論社になります。大正6年に早稲田大学の講師になり、木村は多くの雑誌に評論を書きます。大正7年のところに雑誌をずらずらと並べておきました。大正8年の方には、彼の参加した団体名を書いておきました。そういうところに名を連ね、本格的な言論人としての活動をやっていくわけです。国民に向けて、政府に向けて、それから官僚や教育者に向けて非常に幅広い啓蒙活動をします。それはある種危険な方向性を孕んでいた訳です。

もう一度資料の4をご覧ください。一覧表の方ですけども、例えば1919年のところに「新国民心理の創造」があります。あるいは「民衆の世界改造」があります。そこでは明確に反戦を打ち出しています。民衆は、資本家の懐と軍閥の畑を肥やすだけの武力信仰から醒めて正義の力になるのだと言っています。あるいは同じ大正8年の4月です。「不純なる人種的差別待遇撤廃の要求」の論文が出て、アメリカの日本移民排斥に抗議しながら一方では、日本は中国に行つてとんでもない侵略をやっているじゃないかという矛盾をつき、身勝手なことだと非難しております。それから資料の5の方に行ってください。その続きになります。1920年の前から4行目になります。「バ×トラ×ド・ラ×セ×の哲学」タイトルからして伏せ字です。このままで雑誌に掲載されています。危険思想とみなされる恐れがあったからです。大正10年4月内務省の警保局から出された『最近出版物の傾向と取締状況』には、バートランド・ラッセルの思想を非常に警戒して、『一昨年マルクスを見るが如し』と否定的に受け取っていたようで、そこには木村久一の名前もあります。だから、このように伏せ字にしたということです。

大正9年の1月に森戸事件がありました。東京帝国大学助教授、森戸辰男が書いたクロボトキンに関する論文に問題があるとのことで検挙された事件です。森戸事件について、木村は1920年の2月に「思想言論の自由」を発表いたします。資料2のところの右側に森戸事件

について「思想言論の自由」より転載しました。時間がありませんので読みませんが、森戸の論文は危険でも有害でもないのだと教授たちが擁護すればよかったのだ、と思想言論の前線にいるはずの経済教授連の無自覚を嘆いており、彼はとにかく森戸個人の問題というより、「思想言論の絶対自由」を擁護すべきだと書いているのです。このすぐあとに、左側の年表をご覧ください、5月に木村自身が捕らわれ、早稲田大学教授を罷免されることになります。木村自身の詳細については資料の3をご覧ください。左の下になります。太田雅夫さん「木村事件の概要」から引用させていただきました。ちょっと読みます。「一九二〇（大正九）年五月二三日、『大学評論』編集人信定瀧太郎と早坂二郎が、露国過激派の宣伝文を印刷配布した廉により検挙され大学評論社が捜査された。しかし取調べがすすむにつれて主筆木村久一（早稲田大学教授）が尼港事件に関連し軍事郵便として朝日新聞に送られてきた『反戦の檄』の主催する新思想研究会の席上紹介、それを信定が謄写印刷して配布したことがわかった。そして『反戦の檄』の最後のスローガンとして、『一、戦争の反対、二、ミカドを倒せ、三、世界の無産者団結せよ』が書かれてあったので、六月二二日には、主筆木村久一・編集委員松沢兼人・大学評論社記者児玉治雄が収監されることとなった。この木村事件は、不敬罪および過激派思想の宣伝がともなったため検事局が森戸事件以来の緊張を示した」ということでした。これで概要が分かると思います。「ミカドを倒せ」ということで不敬罪に問われることになります。

彼は懲役刑になりました。大正十一年の内務省警保局編『思想要注意人名簿』を見ますと、この中に木村久一と小松謙助が出てきます。「木村久一 / コスモ / 無政府主義思想ヲ抱持シ大正九年至尊二対スル不敬ノ思想ヲ包含スル過激思想ノ宣伝文ヲ他人二閲読セシメ又ハ貸与シ不敬罪トシテ検挙セラレ受刑仮出獄中」と書いてあります。小松謙助については「社会主義思想ヲ抱持シ大正九年露領ヨリ東京朝日新聞社ニ御送シ来タル不敬思想ヲ包含スル警告文ト題スル過激思想宣伝文ヲ木村久一二貸与シタルモノナリ」ということで、つまり左に点線で囲った太田さんの解説にある上から5行目ですね、「朝日新聞に送られてきた『反戦の檄』の写しを、朝日の記者からもらい」というこの朝日の記者が小松謙助で、それを受け取ったのが木村久一ということになるわけです。

こういう文書を見せたとかいうようなことで2人は要注意人物となるわけです。右側の『新日本の建設』は、木村久一君に送ると書かれた本で、その序のところ連名で星島二郎、片山哲、小松謙助、3人が記されており、木村久一が獄中にある間に出版して差し入れて、鉄窓裡の孤独、つまり鉄の窓の内の孤独と苦勞を一瞬なりとも忘れてもらうつもりのものだったと考えています。しかし木村は案外早く出られましたので、刊行は木村が出た後になってしまいました。しかし、その目次をご覧ください。いただきたいと思います。実に錚々たるメンバーです。この内真ん中より下になりますが、森本厚吉と木村徳蔵というのは、これは東北

学院で小松謙助も木村久一も教わった先生です。森本厚吉は大正デモクラシーの大変重要な人物になるのですが、そのほかの人たちを見ても、すごい人物たちだと思います。大正デモクラシーを牽引した人たちが木村久一のために「新日本の建設」というテーマのもとに結集したのです。そういうことに意義があると思います。また、こういう本が出されているのを見ると、言論人としての木村久一の存在感の重みや、あるいはここで絶たれてしまったことがなんとも惜しいような気がいたします。

小松謙助についてお話する時間は無くなりました。あと少しだけお話しさせていただきたいと思います。もう一度資料2の年表をご覧になっていただきたいと思います。大正14年の3月のところですよ。まず大正9年の7月に朝日新聞社、木村久一事件の後ですけれども、朝日新聞社を退社します。この朝日新聞社を辞めたことに関しては特にこの事件とは関係ないことです。東京日日新聞に移ります。今の毎日新聞の前身です。東京日日新聞は、大正14年に退くことになります。この退く理由もまた、木村久一と同じような理由です。すなわち、東京日日新聞学芸欄に掲載された本荘可宗の論文に不敬の文字があるとされたため、その責任を一身に背負って退社します。そして記者生活に終止符を打ちます。その後、社会教育協会という団体を設立し社会教育の道を突き進むことになります。

なぜ社会教育に志したのかは、やはり東北学院時代にあったと考えます。なぜ東北学院に行ったのかと言いますと、彼は商家の生まれでした。だから軍人になりたくて家を飛び出して横須賀の海軍基地に行ったのですが、体格が小さいということで不合格になってしまい、茫然自失となりました。その小松に向かって海軍の大尉が仙台には労働しながら勉強できる学校がある、だからもっと勉強しなさいと紹介してくれたのが東北学院であったわけです。軍人志望が一転して、明治38年になりますけれども平民新聞、幸徳秋水とかの平民新聞の非戦論に共鳴し、社会主義者になって学校を退学いたします。上京します。本当は平民新聞の記者になりたいのですが、簡単に実現するはずもなく、昼間は事務員の仕事をし、夜は国民英学会、早稲田大学の講義録とかで自学自習をしたんです。そしてようやく5年目に萬朝報社に入ることとなったわけです。社会教育協会の立ち上げには、そのような独学経験、遡れば東北学院での勤労学生体験、そして東北学院時代に感化を受けたキリスト教の影響、そういうものが少なからずあったのではないかと考えられます。

社会教育協会の事業内容というのは学習用のテキストや教育関係の冊子出版あるいは講習会を行うというものです。社会教育協会の理事長は東大教授の穂積重遠という人でした。資料3の『新日本の建設』の目次にでてくる人です。3番目に穂積重遠、1番目に牧野英一がおります。こういった人たちが後援者として社会教育協会に名を連ねています。つまり木村事件が引き合わせた人脈と言えるかもしれません。小松謙助は、このような社会教育に突き進んでいくということになります。資料の2の右側下から2つ目のところに『小松謙助絵日記』

から引用しています。大正 11 年に星島ビルで中央法律相談所を手伝っていて、そこで色々な学者と仲良くなったと書いております。この社会教育協会が発行する雑誌には木村久一も書いています。その他、東北学院の出身者の鈴木義男、鈴木義男はまだ誰も社会教育なんていうことを言い出さないときに社会教育という道に進んだのですが、その志を書いています。

他方、木村久一は昭和 6 年に平凡社に招かれて、傾きかけていた平凡社の起死回生事業の百科事典ですが、その編集長にと懇願されます。百科事典編集という無謀とも思われる仕事を木村久一はやってのけます。そのエンサイクロペディアの訳語として『事典』を採用したのは木村久一で、このことは平凡社の六十年史にも書かれております。それから『月報』に 11 回にわたって「百科事典漫談」を木村久一は掲載しています。「漫談」という題名ですけど、そうとう本格的な百科事典論考になっています。学者が書いたものですから非常に詳しい内容です。その最後右側に引用しておきました。「要するに百科事典の使命は、社会教育の一機関たることである」と木村久一は言っています。最後に、資料 5 の木村久一が書いた「小松謙助君の思い出」を見ていただきたいと思います。その 3 段目 6 行目に葬儀について書かれています。小松謙助は、橋本寛敏の聖路加病院で息を引き取りました。6 行目を読んでみます。「葬儀委員長岩田寅造、司式代々木中央教会牧師小平國雄会衆三百名、学院同窓からは代表者東京支部長鈴木義男、副支部長大山良雄の他小松武治、橋本寛敏、木村久一等の長老先輩の友人関係者が参列した」と書いてあります。このような記事を見ると、結局同じ時期に偶然に東北学院に居合わせたことや、彼らの生きた時代のめぐり合わせを感じます。感慨深いものを感じる次第です。ということで私の話は終わらせていただきたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

『東北文学』に集った人々」資料

年	東北学院	島崎藤村 (養菊) 明 5.3.25 生	岩野泡鳴 (美翁) 明 6.1.20 生	柳川春浪 (芳竹) 明 9.3.21 生	佐藤謙三 (綱松) 明 9.5.1 生	栗原基 明 9.2.15 生
明治 19 年	仙台神学校創立					
20 年	校長 柳川方義、副校長 W.E.ホーイ					
21 年	仙台神学校憲法	9月 明治学院普通学部本科一年入学 木村熊二により受洗	9月 明治学院普通学部本科一年入学			
22 年	仙台神学校学生会が発足	9月 仙台神学校憲法 子爵 柳川方義 (経理、英語)	9月 明治学院進学 神田専修学校入学	1月 ホーイにより受洗 宮城高等師範附属高等小学校修了 自身上京、明治学院入学	11月 斎藤壬生君により受洗	
23 年		7月 第二回憲政講習会 (校長：柳川方義、志：明治学院)	12月 『大政人と文壇』(エマーズン論)		9月 仙台神学校本科一年入学	
24 年	4月 『仙台神学校学生会雑誌』	6月 明治学院普通学部本科卒業	2月 仙台神学校へ、敬明になる つもりが予備科一年に編入	9月 明治学院から 東北学院予科二年に編入		
25 年	9月 東北学院と改称、改組、新校舎落成 予科、本科、神学部 (邦語、英語) 『東北文学』学生会創設しと改題	9月 藤本善治主筆『女性雑誌』に寄稿を 発表し始める	1月より東洋で 『東北学院文学会雑誌』編纂人	10月 東北学院ベースボール会 結成		
26 年	10月 『東北文学』発刊	10月 明治女学校の敬明となる (校長：藤本善治)		1月 東北学院本科一年で退学		
27 年	10月 『東北文学』発行 ホーイ、イヴ・ジャバ、 エヴァンジェリスト』発刊	4月 教女子・佐藤藤子への愛に傾倒 明治女学校を辞し、教会も離脱 関西に渡り、さくらに一時へ	12月 東北学院普通部退学 経理局長	札幌専門学校入学		
28 年	4月 東北学院改組 普通科、専修部 (文科、理科)、 神学部 (邦語、英語)	4月 明治女学校卒業 長兄秀雄、水道監督事件に連累、 未だに送られる	6-8月 藤田『魂送月夜』を 『女性雑誌』に発表	再び上京、水産伝習所入学	12月 本科四年で休学、上京	
29 年	9月 藤村より『美智子』と改題 (第二号より『美智子』と改題)	8月 佐藤藤子死去 12月 再び明治女学校就職		9月 東京専門学校専修英語科入学	5月 帰校 文科に編む	6月 東北学院卒業 9月 第二高等学校入学 同様に内ヶ崎作三郎、 高橋善徳、二年半下に 吉野作造、小山東助 彼らをプセル五史のバ イブル・クラスに誘う →内ヶ崎、島地、吉 野の入信
30 年	3月 労働会、東北学院理事の管理下に	9月 東北学院に赴任 のちに『若菜集』に取められる詩を 次々と『文学界』に発表			10月 東京専門学校文科専科入学	
31 年		10月 母の死 4月 東北学院文学会会長となる 7月 東北学院就職、上京 8月 『若菜集』(第一巻集)		7月 東京専門学校専修英語科卒業 引き続き家政科に入学	東京専門学校を退学 坪内逍遙門下となり、文芸各誌に 小説や翻訳、評論を発表 『東京独立雑誌』(内村鑑三)に多く の評論	9月 東京帝国大学文学 大学英文科入学
32 年	10月 ホーイ、東北学院就職	4月 小宮善徳 (校長・木村熊二) に赴任	送野賢警本部通訳兼巡查教習所英語教師			
33 年		8月 『若菜集』(第四詩集)	8月 『龍じも』(第一巻集)			
34 年	4月 柳川方義、東北学院就職 シュネーガー、第二代校長に就任	4月 小宮善徳を辞し、上京 3月 『龍成』(小説)	滋賀県立二中英語教師 8月 『龍じも』(第一巻集)	11月 『海流軍艦』(処女小説) 6月 春浪『青春奇譚』に附録として、 7月 東京専門学校英語科卒業	2月 『ウオ・ヴァリア』を讀む 渡米	7月 東京帝国大学 広島高等師範学校に赴任
35 年						
38 年						
39 年						
40 年						
41 年						

	木村久一 明 16.75 生	小松謙助 明 19.26 生
明33年	5月 東北学院普通科二年編入学、労働会に入会	7月 労働会退会
34年		
37年		東北学院普通科に入会、労働会に入会
38年	4月 東北学院専門部文科科に進む、サイプ博士のヘルバミとなる	幸徳秋水の非難論に共鳴し、木下尚江の社会主義に同調、本科四年で中退、上京
41年	6月 『東北文学』編輯兼発行人となる(明40年12月まで)	
42年	3月 東北学院文科卒業、別科神学部の英語教師をつとめる	3月 萬朝報社記者となる
45年	9月 東京帝国大学文科大学哲学科入学、心理学を専攻	
大2年	帝大基督教青年会常会に入会	
3年	「心理研究」に精神分析学の紹介を始める	
4年	「心理研究」に早教育に関する紹介を始める	
5年	7月 東京帝大卒業、麻布中学校教師となる	12月 小松の記事が社長の黒岩要香の怒りに触れて萬朝報退社、東京朝日新聞社に移る
6年	「開拓青」に「六合雑誌」に小説を寄稿し始める	
7年	この頃より大正9年まで「大文学評論」「黎明会講演集」「中外」「中央公論」「我等」「解放」「婦人公論」「新公論」等を舞台に多くの評論を発表	
8年	2月 「大文学評論」主筆となる	
9年	この年、文化学会(島中雄三)、啓明会(下中吹三郎)、日本社会教育学会、護国者同盟(湯澤稲治郎)、翌9年、文化生活研究会(森本厚吉、有島武郎、吉野作造)、コスモ俱樂部(堺利彦、宮崎龍介ら)に加わる	7月 東京朝日新聞社を退社、東京日日新聞に移る
10年	森戸事件、木村は思想言論の絶対自由を主張	
11年	木村事件、木村は不敬罪に問われ、叱咤される	6月 星島二郎、片山哲、小松謙助編『新日本の建設』
14年	翌後一箇年の判決により、奉、服後、秋には仮出獄	3月 東京日日新聞学芸編輯部の本荘可奈の論文に不敬の文字ありとされ、その責を一身に負うて退社
昭和6年	この頃、藤文館(星島二郎経営)に迎え入れられる	11月 社会教育協会設立
17年	平凡社(下中吹三郎)に招かれ、『大百科事典』の編集長となる(昭和6.11第一巻～昭和10.10全二巻完結)	
21年	エンサイクロペディアの訳題として『事典』の文字を使用したのは木村のアイデア	
28年	その頃、藤文館(星島二郎経営)に迎え入れられる	3月 東京家庭学園設立、社会教育研究所設立
	「小天地」(平凡社の総合雑誌、のち「時代」と改題)の編集長となる	12月 白梅学園設立、理事長となる

木村久一『早教育と天才』

- ・サイプ博士『俗物と天才』の紹介
- ・人類改良論のゴールトン『建倫的天才』(天才選伝説)やロンブローゾ『天才論』(天才選伝説)を否定、天才は環境の結果。

星島二郎の回想

「明治四十五年、東京帝国大学法科に入学のため上京したが、石井十次翁の勧めにより阿部磯雄先生や内ヶ崎作三郎先生のやっておられたユテリアン教会に入会した。さらに帝大基督教青年会宿舎に入舎し、千駄木町の寮に入り、木村久一・森戸辰男・橋本寛敏・古野尚藤・山本亀一君などの諸君と同宿の時もあった」
(星島二郎「回想 日比谷のかどの『中央法律相談所』」)

森戸事件について

「今度の事件を見るに、少なくとも経済学部の教授連は、学者の使命と天職を自覚して居ないことを暴露した。若し彼等が森戸助教授の論文を、危険とも有害とも認めないと云つて、頑強に固守したなら、思想言論の自由が立派に擁護されたのである。彼等は思想言論の自由を標と乗植した者である」(木村久一「思想言論の自由」)

「小松謙助終日記」(編・画 鈴木忠男)より

「大正十一年、日比谷の門の星島ビルで、星島二郎、片山哲経営の中央法律相談所は料金一件三円也の廉価で入望があつた。その法律新報の編集を手伝、全人のようになり上原悦次郎と将棋ばかりやりやつて居た。こゝで、牧野英一、穂積重遠、吉野作造、末広殿太郎、尾花竹菴、草野豹一郎、中島弘道等の諸学者と懇意になつた」

百科事典について

「要するに百科事典の使命は、社会教育の一機關たることである」(木村久一「百科事典選載」)

《デモクラシーについて》

デモクラシーについての発言は、吉野作造の「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」(『中央公論』大正51)を承けて開始される。2月12日、第四十回心理学通俗講話会において、木村は吉野作造に対する深い尊敬の念を示しながらも、あえてこの吉野の論を踏み台として「心理学上の」議論をするとして、自己の見解を述べた。その講話の談話記事が「民本政治の心理」(『新理想主義』大正52.25)であり、講話の内容を編み起こしたのが「デモクラシーの心理」(『六合雑誌』大正54)ならびに「デモクラシーの心理」(『心理学研究』大正56)である。吉野はデモクラシーの二綱領として、第一に民本政治の目的が「人民の利益幸福」のためでなければならず、第二に政策の決定は「人民の意向」によるものでなければならないと言っており、これはリンカーンの演説を想起させる。しかしながら、

吾々心理学者から見れば、デモクラシーの一層大切な要領は、政治学者の見解とは反対に、for the People と云ふ事ではなくてby the People と云ふ事である

と述べる。なんととならば、人間は成長する生きものだからである。モンテッソリーの著作に、パケツに砂利を入れる遊びをやめようとしないう子供を連れ帰ろうとして、パケツを砂利で満たしてやる乳母の話が書かれているが、それが子供の望むところでないように、無意識のうちにも自分の能力の生長促進を求め、無意識を見逃して、どんなに上からの仁政をしても人民を満足させることはできない。人類の歴史が解放運動の歴史であることも、そうした人間の心理に由来する。したがって、たとえ「人民の利益幸福」の為の政治であって、それが「永久に保

証」されていたとしても、その政治が少数の特殊階級の行いのものであれば、それは悪政である、と断じている。

『心理研究』に著された「デモクラシーの心理」では、さらに「後記」が付されていて、天皇親政を主張する上杉愷吉の論(「我が憲政の根本義」、『中央公論』大正53)に対して、

人民が自身で国務を処理して、敢て君主に世話を厄介をかけるないか

と反論し、民治主義すなわち政党政治でなければならぬと説いている。吉野作造はこの木村の主張を受け入れて、深くその「宗教に感謝する」と応え、自己の論の修正を行った。

《木村事件》の概要

一九二〇(大正九)年五月二三日、『大学評論』編集人信定藩太郎と早坂二郎が、露国過激派の宣伝文を印刷配布した藤により検挙され、大学評論社が捜査された。しかし取調べがすすむにつれて主筆木村久一(早稲田大学教授)が尼港事件に関連し軍事郵便として朝日新聞に送られてきた「反戦の檄」の写しを、朝日の記者からもらい、下中弥三郎(平凡社々長)の主筆する新思想研究会の席上紹介し、それを信定が謄写印刷して配布したことがわかった。そして「反戦の檄」の最後、にスロガンとして、「一、戦争の反対、二、ミカドを倒せ、三、世界の無産者団結せよ」が書かれていたので、六月二日には、主筆木村久一・編集委員松沢兼人・大学評論社記者児玉治雄が取監されることとなった。この木村事件は、不審事件および過激派思想の宣伝がともなっていたため検事局は森戸事件以来の緊張を示した。

木村久一「中央法律事務所と『中央法律新報』」

木村久一／コスモ／無政府主義思想ヲ抱持シ大正九年露領ヨリ東京朝日新聞社ニ贈送シ来タル不敬思想ヲ包含スル警告文ト題スル過激思想宣伝文ヲ木村久一二貫与シタルモノナリ／福島県福島市本町一丁目一番地／東京区小石川區区町一一九番地／東京朝日新聞記者／明治一八年二月九日生

小松謙助／社会主義思想ヲ抱持シ大正九年露領ヨリ東京朝日新聞社ニ贈送シ来タル不敬思想ヲ包含スル警告文ト題スル過激思想宣伝文ヲ木村久一二貫与シタルモノナリ／福島県福島市本町一丁目一番地／東京区小石川區区町一一九番地／東京朝日新聞記者／明治一八年二月九日生

大正十一年頃・内務省警保局編「思想要注意人名簿」(翻刻・編集 水沢不二夫)

『新日本の建設』岩波書店、大正11.6

本書を木村久一君に贈る
序 星島二郎、片山哲、小松謙助、牧野英一、榊重遠、末弘滋太郎、三宅雄二郎、吉野作造、安部磯雄、杉森孝次郎、阿部次郎、森本厚吉、木村徳蔵、新日本建設の一考察、権田隆之介、新日本建設の要案としての科学思想、社会教育に関する一考察、大島正徳、平等論と教育の機会均等主義、口オドベルトスの地代論とカリカドウ、小泉信三、金融資本と社会問題、長谷川万次郎、生存肯定と哲学否定

法律改造の基点としての社会化
法律に現れた維新の気分
民法改造の根本問題
新日本の意義
東洋のアーナーキズム
日本再造の原則
世界平和実現の三大困難
国民思想独立の問題
新日本建設と教育の改造
新日本建設の一考察
社会教育に関する一考察
平等論と教育の機会均等主義
口オドベルトスの地代論とカリカドウ
金融資本と社会問題
生存肯定と哲学否定

故人の思い出 (半年間の回想)

佐藤 迷 幸さん (一)

木村 久一
朝の静けさの中、
窓の外に木々の葉が
さざめく音が、
静かに響く。
「迷君、お別れだね。」
と、木村君は静かに
告げた。
「はい、お別れです。」
と、迷君は静かに
返した。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。

木村君は、
迷君の思い出を
静かに語った。
迷君は、
木村君の思い出を
静かに語った。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。

迷君の思い出は、
木村君の思い出と
静かに重なった。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。

小松謙助君の思い出

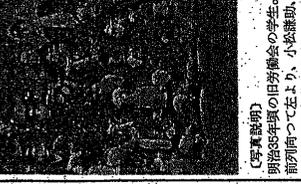
木村 久一

「君よ、本業が芳華し
て、高潔な人生を送る
暇に、遊藝家ぶらば
る。」

木村君は、
謙助君の思い出を
静かに語った。
謙助君は、
木村君の思い出を
静かに語った。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。

謙助君の思い出は、
木村君の思い出と
静かに重なった。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。

謙助君の思い出は、
木村君の思い出と
静かに重なった。
二人は静かに
別れを告げ、
静かに別れた。



1920年 啓明会議演説を聴く (啓明) 大正9.1
1921年 世界の形勢を思ふ (大正9.1)
1922年 シンクレア著作、木村久一訳
1923年 アプトン・シンクレア『西アフリカ』
1924年 木村久一著『中東の歴史』
1930年 木村久一著『中東の歴史』
1937年 啓明会議演説を聴く (啓明) 大正9.1
1942年 学校の発展と能力の開拓
1946年 木村久一著『女子参政権』
1947年 啓明会議演説を聴く (啓明) 大正9.1
1949年 人民の爲に人民の行ふ政治
1959年 往來の思い出
1960年 謙助君について
1962年 故人の思い出

2012 年度

第 17 回 キリスト者教員研修会報告

第 17 回キリスト者教員研修会プログラム

日時：2013（平成 25）年 1 月 18 日（金）

14:00～19:30

場所：仙台国際ホテル

総合司会 大学宗教主任 野村 信

時間・会場	内 容
14:00～14:30	<p>開会礼拝</p> <p style="text-align: right;">司会・説教 大学宗教主任 出村みや子</p> <p>讃美歌 453 番 聖 書 マタイによる福音書第 9 章 35 節～ 38 節 説 教 「収穫は多いが働き手は？」 祈 祷 讃美歌 544 番</p>
14:30～14:45	コーヒーブレイク
14:45～15:45	<p>主 題「大学礼拝における説教を担当して」</p> <p>講師 パネリスト 1 大澤史伸先生（20 分） 2 松村尚彦先生（20 分） 3 長島慎二先生（20 分）</p> <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任 村上みか</p>
15:45～17:00	<p>自由討議</p> <p style="text-align: right;">司会 大学宗教主任</p> <p>発題をめぐって</p>
17:00～19:30	<p>クリスチャン・フェローシップ</p> <p style="text-align: right;">総合司会 大学宗教主任 北 博</p> <p>閉会</p>

「大学礼拝における説教を担当して」

教養学部 大澤 史伸

1. はじめに

2. 自己紹介（専門：社会福祉、福祉市民活動論）

3. 各大学を渡り歩いてきて感じたこと

（どのように創立者の意思、建学の精神を伝えていくのか???)

東海大学(創立者：松前重義→内村鑑三に影響を受けたキリスト者)

帯広大谷短期大学(真宗大谷派)

聖隷クリストファー大学(創立者：長谷川保→カルヴァン主義)

○名古屋学院大学(創立者：クライン博士、内村鑑三も教員をしていた!?)

○東北学院大学

→クリスチャン教職員は、生徒から、教職員からも見られている存在である。

もちろん、神様からも!!

4. 大学礼拝における説教でこころがけていること

－『聖書のパワー物語』(日本地域社会研究所、2011年)を出版－

① 15分で何をどう語るのか？(神学を語るのではなくて、イエスを語る)

② 三浦綾子派ではなく、遠藤周作派を目指す!? 御免なさい!!

③ マザーテレサの苦悩

④ 「大澤先生は本当にクリスチャンですか？安心しました!!」の意味??

5. おわりに

① クリスチャン教員の喜び

・ Aさん：自殺を辞めた(専門学校時代)

・ Bさん：海外ではなくて、日本で看護師として働く

・ Cさん：大学中退、現在、神学校受験を目指す

② 故・榎本保郎、万代恒雄、両先生の教えから学ぶこと!!!

「大学礼拝における説教を担当して」

経営学部 松村 尚彦

本日のテーマ

- ・説教を担当するようになって自分がどう変わったか？
- ・またどんな特別な責任を感じるようになったか？

1. 説教を聞く喜びとは

- ・教会で説教を聞く喜びは、信仰者が持っている内的経験をもう一度違った形で言葉にされることで、開かれ、そして生きた経験として実感しなおすこと、またそれを皆で共有できるということではないかと思う。
- ・しかし大学礼拝では、信仰者を対象としていない。したがって「教会用語」が通じない。そうした大学礼拝ではどのようにしたら、この喜びを再現できるだろうか。

2. 共通の人間経験を探る

■学生に伝わる説教

- ・伝わる説教の鍵は、「言葉の意味」ではなく、説教者が持つ「人格的な力」である。したがって良い説教とは、その人の個性によって色々な形があり得るだろう。
- ・私の場合には、信仰者の内的な経験を、どのようにしてキリスト教の用語を使わないで表現するかにずっと関心を持ってきた。
- ・そのために信仰者であると否とを問わず、誰でもが共通に経験する人間的な思いを掘り下げて、み言葉に照らし合わせながら表現したいと思ってきた。
- ・「誰もが共通に経験する人間的な思い」を掘り下げて、信仰者でない者にみ言葉を伝えようとした一例として、ナウエンの試みを紹介しよう。

■ナウエン「愛されている者の生活」

この書は「世俗世界に生きる友のために」という副題から分かるように、信仰を持たない者に対して、なるべく教会用語を用いずに神の愛を伝えようとしたものである。彼はそれを「共通の人間的な経験に訴える」→「自分もそうだと思いつけるような具体的な経験を引き合いに出す」→「聖書のみ言葉の意味を教会用語を使わずに表現する」という順番で展開する。その大まかな内容を見ていこう。

・共通の人間的な経験に訴える

誰でも自分の心を静かに探っていけば「心の奥深くにある闇の部分」の存在に気づくだろうとノウエンは言う。それは「人間としての自分の存在が本当には歓迎されていない」という感情である。

→この時点でピーンと来る学生はいるはずだ。必ずしも多数ではないかもしれないが... そしてノウエンは更に具体的に話を展開していく。

・自分もそうだと思ひ当たるような具体的な経験を引き合いに出す

「本当には歓迎されていない」という隠された感情をめぐり去りたくて、ある人たちは「成功」「名声」「権力」を求めて「ひっきりなしの忙しさ」の中に自分自身を追い立てていく。しかしそこには真の解決はない。あるいは両親から、教師から、友達から、傷つけられ、何らかの形で拒否されたという経験によって、「自分は本当には歓迎されていない」という感情に閉じ込められ苦しんでいる人もいる。

→私の場合には「ひっきりなしの忙しさ」という言葉にギクリとしたが、学生の中には、人から拒否されたという感情に苦しんでいる者は少なからず存在する。そうした学生にとっては、ここで説教者がどんなことに言及しているのかを、自分の内的な経験から立ちどころに理解するだろう。あるいは自分の隠された思いが言葉にされた驚きと開放感を味わう者もいるかもしれない。では真の解決とは何か？

・聖書のみ言葉の意味を教会用語を使わずに表現する

真の解決は、「あなたは歓迎されていない」という嘘を思い込ませようとして巧みに操作し、働きかけてくるこの世の正体を暴露し続けること、そして「あなたは愛されている存在だ」（ヨハネ3章16節参照）という真理を受け止め、それを他者との関わりの中かで表現できるような存在に変わっていくことだ。

→私の場合、この箇所を読んだときには、自分を苦しめる「この世の正体」を見極めたり！という感じで凄い開放感を味わった。また愛されている存在ということの深い意味を経験し直し心が新たにされたような感じがした。説教者が自分と同じ内的経験のことを話していると理解した学生の中には、この最後の箇所でも何か開かれた存在へと心が向けられるような新しい経験をする者がいてもおかしくないと思う（非常に数は少ないかもしれないが）。

3. 礼拝と学校生活の循環

■学生を理解する

このように「人間的が共通して持つ内的な経験」に関心を持つことは、み言葉の力を借りて、学生をより深い次元で理解することに目を開かせることになるだろう。そして礼

拜と学校生活との間に何か有機的な循環が生み出されることになる（こともある）。その一例として学校教育のあり方についてお話したい。

■学校教育で見えていなかったこと

学生が学習に対して受身で主体性がなく実りある教育ができないという指摘を良く耳にする。しかし学生の内的な経験（学生はそれを言葉にできない）を、み言葉の力を借りて理解しなおすと、必ずしもそうではないように思われる。

「受身で主体性がない」というのは、学校教育のあり方が正しく、学生がそれに応えられていないということを前提とした、かなり傲慢な議論のようにも思えるのだが、どうだろうか。

学校教育のあり方と福音書でイエスが弟子たちを教えた教え方を比較すると、そこには大きな違いが存在する。

・学校教育における隠された前提

→客観主義

学ぶ者（主体）と学ぶ対象（客体）をハッキリ分けて考える。また学ぶ主体とは孤立に「客観的な知識」が存在するものとする。

→個人主義と競争主義

学びは個人で行うもの。その知識は試験によって確認される。

→教員と学生との関係における教員の優位性

教員は知識を所有し、学生はそれを伝達される受身的な存在。

→関係性の分断

こうした隠された前提（客観主義、個人主義、教員の優位性）に基づく教育は、学ぶ者と学ぶ対象、学ぶ者同士、学ぶもものと教員との関係性を分断し、孤立したものにしている傾向がある。

・イエスの教え方

福音書にみるイエスの教え方や弟子との関係は、学校教育における教え方や教員と学生との関係とは大きく異なる。

→経験から学ぶ

イエスは弟子たちとともに生活をするなかで経験を通じて気づきや発見を促す。ここでは実際にやってみせたり、たとえを用いたりして、学ぶ者が学ぶ内容と主体的に関わり合いながら学習が進められていく。

→発見的な学び

そして学びは「客観的な知識」の獲得ではなく、常に発見的なものとなっている。

→学びの共同体

教える者（イエス）と教えられる者（弟子たち）との関係は、愛によって結ばれた共同性のうちにある。そこでは相互の関わり合いのなかで、お互いが成長し、学ぶ喜びが溢れている。

→祈りの力

学びの共同体を支え、その成長を促しているのは、祈りによる力である。祈りによる超越的な力の働きなしには、共同体をつなぐ愛は継続的な力を持たないであろう。

このように考えてみると、学生が「受身で主体性がない」のは、学校教育が暗黙のうちに前提としている客観主義、個人主義、教員の優位性とその結果もたらされる関係性の分断が、「隠されたカリキュラム」として働き、学生たち、あるいは教員たちの行動パターンを決定づけてきたことが大きな原因の一つではないかと思われる。

教育パラダイムを変革し、教員と学生、学生同士の関係性を回復して、生き生きとした学びの喜びを味わえるようになるためには、み言葉の光のうちに自らの教育活動を振り返り、祈りのうちに、新しく創造される（ガラテヤ 5 章 17 節）ことが必要だろう。

「大学礼拝の説教を担当して」

－ 2012 年度東北学院大学キリスト者教員研修会 講演要旨－

機械知能工学科 長島 慎二

わたしは、東北学院の出身ではありませんし、キリスト教教育を受けたこともありません。生まれ育ちは真宗王国と呼ばれる富山県の富山市です。我が家も本願寺派の門徒でありました。小さいころから親鸞が著した正信偈という偈文を耳にタコができるくらい聴いて育ちました。おそらく、ここにいらっしゃる皆さんが、将来、自分が内閣総理大臣になるなどとは想像もしていられないことなのでしょうが、同じように、わたし自身がキリスト者になるなどということは想像していなかったことです。そのわたしがキリスト者になった次第については、本日のテーマではありませんが、きっかけとなったのが、教授会の冒頭で読まれた御言葉でありました。当時、工学部の宗教部副部長は兩貝行麿先生でした。読まれた箇所はヨハネによる福音書の9章の冒頭。衝撃を受けて、周囲に、これはどういう意味なのかを聞いたものでした。そのうちに、多賀城市にあるブックスなにわという書店で聖書を購入し読み始めましたが理解は困難でした。気が付くと大学礼拝がありましたので出席し始めました。わたしは、スタッフのひとりとして礼拝に出席しましたが、それは、礼拝を整える手助けをするためではなくて、ただ求道を目的として毎日出席したのです。おそらく、宗教部長が出村彰先生だったのでしょうか。毎週水曜日の出村先生のお話は特に楽しみにしていました。そういうわけで、今日、第一に言いたいことは、大学礼拝は、もとより学生を対象としたものでありますが、スタッフにとっても、いわば東北学院に連なる全ての者にとって整えられているものであるという認識を持つべきであるということなのです。

工学部の礼拝に出席するようになって後に、教会の門を潜りました。ルーテル教会です。浄土真宗の門徒であったわたしにとっては、聖書のみ、信仰のみ、恵みのみという教えは素直に受け入れることができるものでした。洗礼を受けたのが1989年12月でした。わたしは、特に近い人しか受洗については話しませんでした。そのうちに、大学礼拝の奨励を担当することになりました。ところが、わたしが最初に奨励を行ったのは予定されていた日時ではありませんでした。当時は清野鉄雄先生が学長先生だったかと思います。ある日、工学部の礼拝に出席していましたところ、説教を予定なさっていた清野先生が礼拝の時間に間に合わないということになって、宗教係であった木村悦子さんが、わたしに奨励をするように依頼しました。わたしは、すぐに白衣を脱いで説教壇に上がりました。神様のお取り計らい

であると感じました。大学礼拝の奉仕は、ひとえに神のご計画のうちになされるものであるということを知ったのです。

その後、大学礼拝の他にも、キャンパスミニストリーに関わることになりました。なによりも感謝であったのは、工学部の聖書研究会に携わってきたことです。宗教部の多くの先生にお仕えしてきました。そして、神の導きを多く目の当たりにしてきました。わたしが最初に、機械工学科の渡邊平八郎先生に伴われてキリスト者青年会に顔を出した当時は、現在、仙台ホサナ教会の牧師をしている長尾厚志牧師は工学部の学生でした。キリスト教学科に転学科すると話をしていたことをよく覚えています。土木工学科の学生であった山元克之君は牧師になりました。機械知能工学科の鈴木素生君は、わたしの教会の教会員になりましたし、工学部の礼拝でのわたしの奨励を聞いて聖書研究会に来たという遠田育子さんは在学中に洗礼を受けて、今は工学部の同僚になりました。個人的なことでは、わたしの家族が共に洗礼を受け、富山にいる弟家族もキリスト者になったのです。

今日、もうひとつお話ししたいことは、同じ学科の同僚であった渡邊平八郎先生のことです。同僚といってもずっと上の世代の方で、戦時中は戦闘機のエンジンの開発に携わった方です。仙台広瀬河畔教会の長老で会計をなさっていらっしゃいました。おそらく、わたしのことを罪深い者であると思っていちゃったことでしょう。わたしが洗礼を受けてからのことでした。ある日、渡邊先生から研究室に招待されたのです。先生は、机の引き出しを開けて一冊のノートを手にお取りになりました。説教原稿ノートでした。中には手書きの説教原稿が書き込んでありました。渡邊先生はそのノートをわたしに渡して、これからはわたしがオリエンテーションキャンプの礼拝を受け持つようにおっしゃったのでした。愚かにも、そのノートはどこかに紛れ込ませてしまいました。新入生オリエンテーションキャンプは学生部の管轄ですから、宗教部は関わっていないだろうと思います。しかし、わたしは、キャンパスミニストリーの重要な一部分であると思って担当してきました。渡邊先生が心を込めてなさっていたようにわたしも気持ちを込めて担当しています。

思い起こせば、多くの方々の導きがありました。教授会で朗読された御言葉に引き付けられ、大学礼拝で養われました。一般論ではありません。わたし自身の個人的な体験です。しかし、これは確かに神によって整えられたものです。ですから、みなさんと共有することができると思うのです。キャンパスミニストリーは、もとより大学礼拝が中心でしょうが、教授会の冒頭での祈りと御言葉朗読も、聖書研究会も、オリエンテーションキャンプも重要な一部であることです。いずれも、真に力があるのは御言葉です。堂々と御言葉を語っていきたいと思います。

平成 25 年 1 月

2012 年度
第 38 回 サマーカレッジ

第 38 回サマー・カレッジプログラム

主題：「人間・大地・自然」（天地創造の神）

	8月6日(月) (タイム・キーパー：千田愛)	7日(火) (タイム・キーパー：福仕瑞歩)	8日(水) (タイム・キーパー：八島知美)
7時		朝食 (バイキング)	朝食 (バイキング)
8時		8:30 朝の祈り 川村純平	8:30 朝の祈り 長島心一(1)
9時		講演Ⅱ「人間・大地・自然」 野村 信先生	講演Ⅲ「ピーターラビットと 自然保護」 出村みや子先生
10時		グループでの語り合い	10:30 学生たちからの発表 土田悠太(1)、亀山美紀(3) 保坂彩乃(2)、秋場愛咲(2)
11時		11:30-12:15 昼食 担当 渡邊眞子、渡邊 彩	11:30 閉会礼拝 原田浩司先生
12時		12:30 酪農センター出発 見学・体験 作業助手 本田佳月(1)	12:00 昼食 佐藤杏菜、阿部香奈美
1時	1:30 までに 土樋集合 1:30 開会礼拝 担当 大場君		1:00 出発
2時	講演Ⅰ「自然災害と人間」 環境建設工学科 石川雅美先生		
3時	司会・質疑 土田悠太 ボランティア・ステーション見学	自由・ソフトボール 担当 土井大地(2) 他	
4時	土樋出発 バス		
5時	オリエンテーション 羽賀さん		
6時	夕食担当 塩田有香理、奥山愛菜 (2年)	夕食担当 工藤萌恵、佐々木彩	
7時	親睦会担当 長井太、菊地衿花、 京洋平、杉原舞純	讃美の時 今井奈緒子先生	
8時	共に歌おう (15分ほど) 野村先生・マーチー先生	学生の演奏・讃美 岩佐光(3)、庄司梢、	
9時	夕べの祈り 担当 青木彩 佐々木哲夫先生	夕べの祈り 担当 林裕登(2) 北博先生	
10時	就寝	就寝	

「自然災害と人間」

工学部 環境建設工学科 石川 雅美

昨年の 3 月に発生した東日本大震災の際には、電気、ガス、水道など、様々なものが長期間にわたってストップし、突如として不便な生活を強いられることとなりました。さらには道路や鉄道が不通になることによって移動することが困難になっただけでなく、物流が止ったため食料品店ではそれまで当たり前のように食品であふれていた棚が信じられないほどにカラになってしまい、食事にさえことを欠く日々が何日も続きました。昨年に起こった震災では、このような苦しい日々を過ごさざるを得なかった訳ですが、その一方で、これまで私たちの生活を支えていた電気や水道の交通網の大切さを改めて実感された方も多かったことと思います。

私たちが文明的(civilization)な生活する上で不可欠な電気や水、通信、流通を支える道路、鉄道などのライフラインを建設し、これらを支える仕事をしているのが土木技術者です。例えば、水道水を確保するためにダムを造り、飲料に適する水にするため浄水場を日々管理して、水道水を家庭まで配管して供給する。トイレの水は下水処理場を通して環境に影響を与えないように浄化して川や海に流す。また、道路を造る、発電所を建設する、鉄塔を建てる、電車の線路を敷設する、港や空港を作るなど、生産や生活基盤形成する構造物(インフラストラクチャと言います)を建設し、管理するのが土木工学(Civil Engineering: 市民のための工学)の役割です。すなわち、土木とは、市民の文明的な暮らしのために人間らしい環境を整えていく仕事です。

ただ、残念なことに「土木」という言葉にあまりいいイメージを持っておられない方もいらっしゃると思います。一時マスコミで報道されていたように、「談合」や建設会社と政治家との不正な結びつきなど、また身近なところでは工事による騒音や交通渋滞など、とかく負のイメージが強調されているように思います。しかしながら、ほとんどの土木技術者は日々技術の研鑽に励み、社会に貢献するという高い志をもって仕事をしているということを多くの方々に知っていただきたいというのが、今回の「サマーカレッジ」での講演の趣旨です。

実は私も 18 年間、土木技術者として建設会社で働いてきました。その間、常に「社会の役に立つ」ということを意識してきたつもりです。もちろん、かつての仲間たちもそのような意

識を持っていました。余談ですが、私が働いていた会社の給湯室には「水の一滴は土木技術の汗の一滴、酒の一滴は土木技術の血の一滴」という標語が貼られていました。後半の「酒の一滴は…」の部分はおまけですが、この標語は水や電気の大切さを強調するとともに、技術者として人々の生活を支える仕事に励むことを忘れないようにするためであったように思います。

現在のような社会資本整備は、明治時代にその出発点をおくことができます。当時の明治政府は、まず港湾と鉄道の建設に重点をおきました。東北地方は、特に重要視されていました。1872（明治5）年に新橋～横浜間にはじめて鉄道が開通し、わずかその15年後の1887（明治22）年に東京～仙台間まで開通しています。東海道線の新橋～神戸間が開通したのは、仙台に2年あまり遅れること1889年です。ちなみに明治19年に東北学院大学の前身である仙台神学校が創立されています。

明治から昭和の初期にかけて、広井勇（秋田港や小樽港の築港に従事、内村鑑三や新渡戸稲造と札幌農学校にて同級であった）や青山士（荒川高水路、大河津分水路を建設）、八田興一（台湾の烏山頭ダムを建設、いまでも台湾の人たちから感謝されている技術者）など多くの土木技術者が活躍し、我が国の社会資本は急速に整備されていきました。しかしながらその時代は、誰もが土木技術者になれる訳ではなく、高い志を持った選ばれた人だけがなれたのです。中でも青山士は、「私利私欲のためではなく広く後世の人類の為になるような仕事をしなければならない」と語っています。今もお先達の教えは受け継がれており、土木学会では、土木技術者の使命として、1)人々の命を守る、2)より安全な社会をつくる、3)より便利な社会をつくる、4)倫理を重んじる、を掲げています。

今回の東日本大震災は、土木技術者たちの高い志と使命が発揮された場でもありました。国土交通省によって立案された「くしの歯作戦」と名をうたれた救援ルートを確認する方針は、国道4号線を軸に沿岸部へとつながる16ルートを選定して、これを集中的に「啓開（道路や橋の障害物を取り除いて、道を切り開くこと）」することでした。3月12日にはガレキに埋もれた11のルートの通行を確保し、3月18日までには、主要道路の97%通行可能になりました。国土交通省を中心とした応急復旧は、目覚ましい早さで進み、被災された多くの方々を救いました。その陰にはトップの素早い決断と、国土交通省の職員や地元建設会社の方々の不眠不休の働きがありました。今も復興への取り組みは続っていますが、技術者たちの汗と努力の一端をご記憶いただければと思います。

「神の恵みは人間と世界に満ち溢れ」

(人間・大地・自然)

さあ、明日に向かって生き活きと進んでいこう！

野村 信

[1] 人間について <我々は人間をしばしば「身も心も」とか、「霊肉」と二つに大別して呼ぶ>

(1) 人は体を養う・・・体は「自然」によって養われている。(衣食住の基本生活)

- 1、我々は毎日、「自然」から生まれた糧(穀類、肉類、水分)を食して元気に生きる。
- 2、だから、人は土から生まれ、(間接的に)土を食べて、最後に土に還る。
- 3、「自然(大地)」、つまり可視物を良く観ると、「生きる源」と共に「真理や知恵」を発見できる。科学・技術の進展、芸術作品の価値、経済活動の活性、社会・共同体の形成、医療の進歩、人間と文化の研究、すべてが「自然世界」の恵み(秩序や法則、真理)から得られたものである。

(2) 人は心を養う・・・心は衣食住では養われない。「他」によって養われる。

- 1、人から学ぶ。「人格は」人から学び取られる。両親・家族、年配者、教師、偉人・・・
- 2、書物から学ぶ。賢人・聖人・達人らの遺した(有名な)書物を読んで教わる。
そして聖なる書物、すなわち「聖書」から最高の学びをする。
- 3、自然から学ぶ。①大自然は人の「心」の故郷である。・・・賢治、国男、秀雄、美恵子、孟司
②動植物は凹まない、行き詰らない、最後まで全力で生きる。
しかも誰にも見られなくても美しい。→自然の三大原則(slide)

(3) 人も書物も大自然も被造物である。(被造物：造られたものの意。自分で造らないこと)

- 1、大自然は人間の産みの親ではない。①人間は自然を破壊し、自滅もできるから。
②人間は自然が持たない「知性」をもつので。
- 2、人も大自然も永続しない(と予感する)。すると誰かが意図的にここに置いた。
「聖書」は一貫して超越し全能なる神が世界と人間を造ったと教える。
☞初めに、神は天地を創造された(創世記 1:1)。
☞主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった(2:7)。
- 3、よって、人間は(自然も含めて)「神」を認識する時に真の「産みの親」であり、真の「故郷」を回復する。神に出会って初めて人はまことの安らぎを得る。
..... アウグスティヌス(354-430)曰く、・・・(『告白』第1章1節)
あなたが私たちを、あなたに向けて創られたので、

私たちの心はあなたの内に憩うまで、安らぐことはありません。

[2] 世界(自然・可視物)について

(1) 世界には学ぶべき二つの光がある、神の光と(人間を含めた)自然の光である。

- 1、旧約聖書 ☞初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。
神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった(創世記 1:1-3)。
…すなわち、神(の光)が世界を照らし(光らせ)た。(※太陽の光ではない)
よって、自然、可視物すべてに神の光の痕跡(刻印)がある。
新約聖書 ☞良い贈り物、完全な賜物はみな上から、光の源である御父から来る。
(ヤコブ 1:16)
☞[神の]光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。(エフエソ5:9)
- 2、よって、聖書を学ぶ者は神の光を見、自然を学ぶ者は神の光の刻印を見る。
前者は、力、命、輝き、愛、憐れみ……………(理性的・啓示的)
後者は、喜び、幸い、平安、秩序、神秘……(感覚的・直観的)である。
- 3、総じて、神は始まりにいて、現在にいまし、未来にいる「私たちと共に」前進する神である。私たちが自然や人間といった可視物が深く観て、その奥に貴重な真理、掛け替えのなさを感じる時、そこに神の恵みが豊かに溢れていて、「身を隠しつつ現す神」の聖霊的現臨(刻印)に触れる。

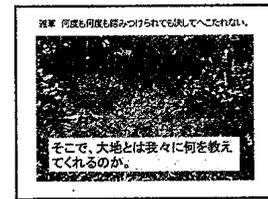
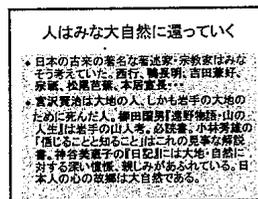
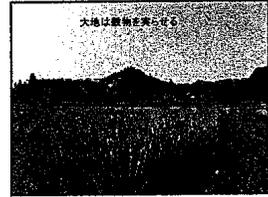
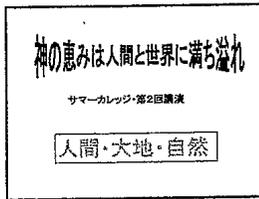
[3] 一つの光

(1) 二つの光は、「光なるキリスト」において一つである。

- 1、新約聖書 ☞こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです(フィリピ 2:10)。
☞御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって御子のために造られました(コロサイ 1:15-6)。
☞神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました(コロサイ 1:19)。→全部を贖い、神へ復帰させた。

[4] 結び

- (1) 神の光(恵み)は人間と世界に満ち溢れている。すなわち恵みに満ち、光りなるキリストによって人間と世界、万物にまで豊かに及んでいる。だからこそ、私たちは人生を喜び、神に感謝し、祈り、歌える。「神の国はあなたがたの間にあるのだ。(ルカ 17:21)」
- (2) 人生を肯定し、世界を喜ぶ時、隣人、隣物、世界を愛せる。さあ、新たな旅立ちへ！



メールで近況ありがとう。まだ外出する気にならないかもしれないけれど、気長に、しかし希望をもって少しずつ前進していけるように、身近なことから始めましょう。

こちらはようやく時間が取れる時期になりましたので、ご参考になるか、単なる駄弁になるかは心もとないのですが、最近考えていることをお話ししたいと思います。

ここ数年、私は人生も後長くはないと思うようになって、急に毎日、毎時間が大切で無駄にできないと思うようになりました。それと同時に、自然の移り変わりがこんなに豊かだったのかと驚くほど新鮮で活き活きと感じられるようになりました（前者を「空間性」、後者を「大地性」と名づけました）

この手紙では、この自然（大地性）について、少し触れておきます。ここ数年、自然がこんなに豊かで、柔かく私を包んでくれるという意識が私の中に芽生えているのは、私自身が自然を豊かに、温かい気持ちで見つめるようになったからかもしれません。いずれにしても、私たちは、自然と共に、自然に生きるしか生きる方法がないと思います。神様は、大地から私たちを創り、命を吹き入れてくださり、私たちは生きるものとしてくださいましたが、大地から得られた食物を日々摂取するという仕方では生命は維持されます。そして、いずれ神様が私たちの命を終わらせてくださった後は、私たちの肉体は再び土に還元していきます。だから、自然は、私たちの出発地点であり、終着点でもあります。ただ私たちの創造主なる神は、私たちを大地に消えていくことをよしとされず、私たちを御自身のもとへと迎えてくださるという約束をしてくださりましたから、私たちの肉体は滅びようとも、私の魂と共に、私という存在そのものがきつと良いものへ移り行くと確信します。

そこで、私たちの出発点であり終着点である大自然とはどのような性質のものかを考察することは生きていく上で大切なことです。私たちは自然の一部であることは万人の一致した意見です。ただし、ここでどう自然を考察するかが問題であり、まず議論する上で次の二つの前提は覆すことができません。すなわち、大地のすべてのものは神によって創られ生かされていますから、大地を神的なるものと捉えたり、拝んだりすることは出来ません（日本の宗教にはそう奨励するものもあります）。ただ大地・自然はみな神に向って真っ直ぐに背を伸ばしているの、そのように創られている大地・自然には「神の手垢」、「神の光の痕跡」と表現したい何かは残っていると思います。

もう一つの前提は、大地を考察するといっても、科学的に、あるいは生態学的・地質学的に考察するというではありません。それは科学者たちに任せておけばいいのであり、そのような実証的・現象的な領域をお話ししたいわけではないのです。

そこで本題に入りますが、私は大地・自然を観察することによって得られる「自然の三つの原則」を提唱したいと思います。「自然の第一原則」は、「自然は常に全力投球をする」ということです。私たちの身のまわりにある植物や動物たちを少し観察しただけで、すぐに気付くことは自然界にあるものは、決して「凹まない、行き詰まらない、最後まで全力投球をする」という点です。「窮鼠（きゅうそ）猫を噛む」とあるとおりです。先日、うっかり一匹の蟻を我が家の玄関で踏んでしまいましたが、手足が2、3本取れても、エサを再び掴んで、目的地へと運んでいく姿に小さな感動と申し訳なさを感じました。確かに自然の動物・植物には自由意志や十分な知能はありませんが、「生きる」という点では、決して怠けることもあきらめることもしません。命尽きるまで「生きる」とことにおいては全力投球です。それに較べて私たち人間はなんと弱々しいことでしょうか。すぐに疲れ、怠け、凹み、行き詰まります。ですから、大自然の一つ一つから「ひたむきに生きること」を学ぶことは現代人に欠かせません。

「自然の第二原則」ですが、それは各々「独立独歩」である、ということです。自分が生きていく上で、すべきことの全てを自分で行うということです。人間は他人に世話をしてもらったり、あるいは他人を使ったりすることはできますが、それが却っていつの間にか自分では出来ない「自立しない人」を作り出します。しかし自然界には「自立しない」ものはありません。確かに植物が繁殖するために昆虫(蜂)などを利用し、大地から栄養摂取などはしますが、基本的には自然のすべてのものが「独立独歩」です。私たち人間は、余りにも周囲に依りかかり、周囲や社会のせいにして自分の「未独立性」に気が付かないということはある得そうです。要するに、私たちはもう少し他人に頼らない生き方をすべきです。

唐突ですが、宮本武蔵は「独行道」という人生訓を遺していますが、「独行道」とは、「独りで行く道」という意味と「独りで行う道」という両方があると思います。いずれにしても、宮本武蔵が晩年さらに純化されて生きていく姿には現代人が見失った生きる原則から来る力強さ、揺るぎなさがあります。

「自然の第三原則」ですが、それは「共生・共存」であり、一種の秩序ある均衡（いわば平和）を作っています。もし地球から人間がいなければ、大自然の動物・植物は、多少のデコボコはあっても、随分、バランスのある生物分布図を構築するであろうと思います。人間は動物や植物を食物として摂取しながら支配し、管理するという能力を、いつの間にか乱用して自然界を支配下においたと錯覚していますが、その錯覚は、むごい戦争を引き起こして地上に大きな傷を負わせ、さらに大地の資源の乱用、汚染、悪化を生み出しています。放射能の汚染は人類だけではなく全被造物への深刻な侵害です。そこで、私たちは、自然の動植物が、多少の変化はあっても互いに共生・共存しているという美しい秩序を構築していることを学んで、もう少し、協調・平和を維持する努力をしなければなりません。そのために、私たちには、人間に対してだけではなく万物に対する親しみと畏敬の念をもった「心」が与えられていて、その中心には「愛」、あるいは「憐れみ」という大切な感情が置かれています。要するに、私たち人間にとって感受性に富み、愛にあふれた「まことの心」が養われることが大切です。新約聖書に使われる「憐れみ」というギリシャ語は全部キリスト（ないしは神）に使われているのも大切な点です。

以上の三原則を紹介しました。私はありふれているように思われるこの原則が結局人間の「生き方上手」の基本であると思います。繰り返しますが、私たちはまさに自然の一部であり、自然そのもののものです。しかし創造主なる神を讃美できる自然物ということでしょう。

そういう訳で、まず「生き方上手」であるべきです。現代は「基本的にたくましく生きる」のが弱いのです。それは「自然」が日常生活から欠落しているという点が大きいです。まず空を見て、雲のゆっくりとして、しかし寸分の乱れもなく進んでいく様子から「基本的な生き方」を学ぶ必要があると思います。また一本の木が大地に根を張って、なんとたくましく大きく成長しているかを、学ぶ必要があります。さらに可視物すべてが己の務めを怠りなく、疲れることなく果たしていることを観察する必要があります。パプテスマのヨハネは、幼少から荒野で修行をし、主イエスは公生涯を始める前に荒野でやはり修行しています。それは、「修行」というより大自然の中で「生きることの基本」を学んだということです。すなわち、そこで学んだことは、二つです。神が世界とそこにあるすべてを創られたことをしっかりと体得することと、神は特に私達を、神を信じ、讃美できる存在として生かしてくれている、と深く認識することです。

以上、最近考えていることを少し述べさせていただきました。お役に立つか、あまりにも分かりきっていることを述べて「空振り」だったかもしれません、駄弁にお付き合いください感謝です。

どうぞ、ゆっくりと静養されて、すこしずつ慣らされていきますように。

私達を憐れみ、いつも見守り、導いてくださる神に感謝し、喜びつつ。

野村 信

忘れない。

東日本大震災と救命・救援ルート確保へ復旧への記録

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、忘れがたきできごと。太平洋沿岸の街は孤立した。

道を閉じ、一刻も早く人命救助と救援ルート確保へ東北6県、仙台市、陸上自衛隊などと連携して国土交通省東北地方整備局は緊急輸送路の確保に奔走した。

このハネルは、命の道を切り開き、復旧や市町村支援に投入したその活動記録です。被災者、被災地への思いを忘れない。大震災と戦った日々を風化させてはならない。地域や世代を超えて、今回の教訓を共有していくことが大切です。これらのハネルが、地域の防災力向上のため、来日明日への備えの一助になれば幸いです。

国土交通省 東北地方整備局

地震発生、津波襲来。

東日本大震災と被災の状況

平成23年3月11日 金曜日、午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。

東北地方を中心に、東日本を最大震度7の激震が襲った。その後、巨大津波が太平洋沿岸に押し寄せ、沿岸地域に甚大な被害をもたらした。

国土交通省 東北地方整備局

3月11日(金) 14時46分 巨大地震発生。

地震発生、津波襲来。

マグニチュード9.0、最大震度7の激震だった。宮城県の大震災で震度7、宮城・福島・茨城・栃木県で震度6強という地震が、東北地方を中心に東日本を襲った。地震の規模はマグニチュード9.0で、断層の観測史上最大規模だった。東日本大震災は、本震を含め4つの大規模地震が連続して発生した運動。本震後40分の間にマグニチュード7.0以上の地震が三陸沖から茨城県沖にかけて発生した。余震も多発し、1か月間でマグニチュード5.0以上の余震が400回以上発生。震源域は、岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。

震央分布図

震源地域

発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分
 震源 三陸沖(牡鹿半島の東側東130km付近) 深さ24km
 規模 マグニチュード9.0
 地震名 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震
 主な震度 震度7:宮城県北部
 震度6強:宮城県中部、福島県中津川、茨城県北部、栃木県北部
 震度6:岩手県宮城野内、茨城県北部、福島県、岩手県、宮城県、千葉県、千葉県

東日本太平洋沿岸 巨大津波襲来。

地震発生、津波襲来。

観測史上最大の津波が沿岸地域を襲った。

東北地方を襲った直後、北海道・東北・関東地方太平洋沿岸に巨大津波が押し寄せ、沿岸各地に襲来した津波は、最大10m以上に達し、未曾有の被害をもたらした。その後の調査で、海岸の地形や湾の形状などによって津波の高さは異なり、被害の状況も違っている。例として津波の高さでは、岩手県宮古市で99m以上を記録。これは1896年の明治三陸地震の際、岩手県大船渡市で確認された38.2mを上回る、観測史上最大の規模となった。

津波被害

大津波襲来
 北海道太平洋沿岸東部、北海道太平洋沿岸中部、北海道太平洋沿岸西部、青森県太平洋沿岸、岩手県、茨城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里、外房、伊豆諸島 [1日 15:33現在]

津波の高さ (津波観測点付近の観測等から推定した高さ)

津波の高さ	観測地点	高さ	津波の高さ	観測地点	高さ
八戸 (岩手県)	6.2m	大船渡 (岩手県)	11.9m		
久慈港 (岩手県)	8.6m	石巻津島川 (宮城県)	7.7m		
宮古 (岩手県)	7.3m	釜石港 (岩手県)	7.2m		
釜石 (岩手県)	9.3m	髙島 (福島県)	8.8m		

津波の上り高さ

津波の上り高さ	観測地点	高さ
宮古市 (岩手県)	39.211m	
釜石市 (岩手県)	30.480m	
大船渡市 (岩手県)	31.839m	
南高田市 (岩手県)	22.184m	
気仙沼市 (宮城県)	22.671m	
南三陸町 (宮城県)	20.488m	
髙島市 (福島県)	21.203m	

地震発生、津波襲来

死者・行方不明者が2万人規模の未曾有の被災だった。

地震とその後の大津波により、太平洋沿岸各地を中心に各地で甚大な被害が発生。死者・行方不明者は合わせて2万人近く、避難者は23万人以上に達した。また、家屋の全壊をはじめ、道路の流失や崩落、橋の落下、堤防の全壊など、広範囲に及ぶ被害が発生した。被災は、災害対策の司令塔となるはずの自治体庁舎にも及んだほか、太平洋沿岸の国道45号、4号、6号の各所を寸断、沿岸部の各地を孤立させた。

避難状況	
死者・行方不明者	死者15,844名 行方不明者2,468名 (平成23年12月 東日本震災復興本部発表)
避難者数(仮置)	全額 12万7,130名 一部撤去 6万2,154名 (平成23年12月 東日本震災復興本部発表)
避難者数	33万4,788名 (平成23年12月 東日本震災復興本部発表)
河川の被害	2,115箇所 (平成23年1月 国土交通省発表)
堤防被害の被害	幅平、宝城、徳島3県(総延長300km)に亘り、全壊・半壊が約166km (平成23年1月 国土交通省発表)
港川の被害	阪神間北港及び重要港湾11港 地方港湾18港 (平成23年1月 国土交通省発表)
下水道被害の被災	下水道処理場の管線停止18カ所(神戸県、宮城県、福島県及び茨城県の沿岸部にある下水道処理場) 管線17市町村などの下水道6,046kmのうち、957kmで被災 (平成23年1月 国土交通省発表)
道路の被害箇所数	高速道路15箇所 一般道39区間 都道府県道の管理区間102区間 都道府県道など533区間 (平成23年1月 国土交通省発表)
津波による浸水面積	幅平県556km ² 宮城県327km ² 福島県112km ² (平成23年1月 国土交通省発表)

橋桁流出、道路崩壊

国道45号など、沿岸部の道路が寸断された。

巨大地震と巨大津波は、道路に甚大な被害をもたらした。特に宮城県から岩手県、宮城県にかけて三陸沿岸部を貫く国道45号は、道路の崩壊や流出、橋桁も流出するなど各所で寸断。また、宮城県から福島県以西に南北に走る国道6号なども道路崩壊などにより寸断された。内陸部でも崩壊の崩壊などが各所で発生。太平洋沿岸部を結ぶ道路が通行不能になり、救助や支援を持つ多くの被災地が孤立した。

崩壊した国道6号

港湾機能停止

港湾施設は破壊され、湾内には大量のがれきが流出、散乱した。

東北最大の港湾、仙台臨海港湾をはじめ宮古、釜石など太平洋沿岸の名港湾は、津波により甚大な被害を受けた。港の“かため”である防波堤が破壊されたほか、船舶の接岸場所や荷役クレーンなどにも被害が発生。多くのがれきは海上だけでなく湾内にも流出、散乱した。そのため、船舶の航行に支障を来し、入港は全面的に停止。湾内に漂う交通機関も寸断され、海上物流は完全にその機能を失った。しかも、大津波襲来、津波襲撃、津波注意報と3日連続して発生されており、沿岸部に近づくことさえできなかった。

港内に流出した木材

崩壊した海上クレーン

河川・海岸堤防、決壊、流失

仙台湾南部海岸の堤防や、多くの河川堤防が流失した。

地震と津波は、海岸堤防や河川堤防に甚大な被害をもたらした。仙台市から福島県境までの約50kmに及ぶ仙台湾南部海岸は、ほぼ全域に亘って海岸堤防が崩形をとどめないほど決壊・流失。また、北上川や阿武隈川など河川部の堤防も、津波の襲撃により流失や決壊、流失した。上流部においても、地震により堤防の亀裂や崩壊、浸透化などもなった決壊などが発生。被災地の中には道路崩壊箇所もあり、孤立した被災地へのルートとして次がせず、一刻も早い復旧が求められた。

一刻も早く。

救命・救援ルート確保への記録

避難と巨大津波により、太平洋沿岸を通る国道が各所で被災。道路が寸断された。

一刻も早く、被災者を孤立から救え。

「命の道」確保に向けて、被災地へのルートを開き切った。

「くしの歯作戦」が実行された。内陸部を両名に貫く緊急道と国道4号から「くしの歯」のように沿岸部に伸びる何本もの国道。その生命線を確保せよ。

自衛隊の救命、救援物資の輸送のため、地震発生直後から任務を問わず、一刻を争う戦いが始まった。

国土交通省 東北地方整備局

37分後

一刻も早く。



国土交通省東北地方整備局
【みちのく号】
2011.3.11 PM3:23

防災ヘリからのライブ映像が、早期対応の判断材料に。

巨大津波は仙台空港をも呑み込んだ。だが、その直前、国土交通省 東北地方整備局の防災ヘリ、「みちのく号」は飛び立っていた。地震発生直後、民間航空会社の乗員は格納庫の扉を閉鎖し、テイクオフに備えた。そして国土交通省東北地方整備局からの指令を受け、地震発生から37分後に飛び立った。ヘリから送られてくるライブ映像は、緊急を告げる巨大津波をとらえ、重要な被災状況を伝えた。この情報が、真っ先にすべきは救命、救援ルートの確保、という判断をもたらした。



国土交通省東北地方整備局
仙台空港
2011.3.11 PM4:37

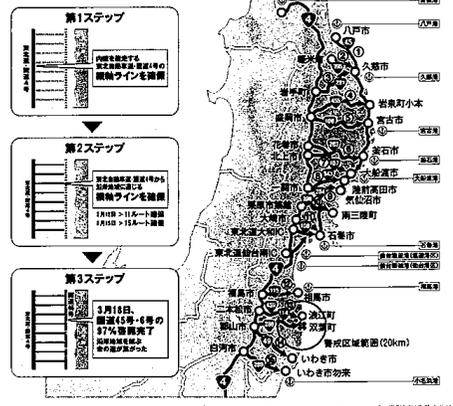
「くしの歯作戦」、決行。

一刻も早く。

命の道を切り開く、一刻を争う戦いへ。

「くしの歯作戦」とは、内陸部を南北に貫く東北自動車道と国道4号から、「くしの歯」のように沿岸部に伸びる何本もの国道を、救命・救援ルート確保に向けて切り開く作戦のこと。

想像を超える巨大津波は、太平洋沿岸の各地に壊滅的な被害をもたらした。がれきや傾斜の崩壊で沿岸部の各地を孤立させた。地震発生直後、国土交通省 東北地方整備局の災害対策課には、幹部や職員が練々と集結。運輸関係事務所や出張所と連絡を取り、被災確認と対策立案を急いだ。そして、直ちに、命の道確保に向けてルートを切り開く「くしの歯作戦」を実行した。



2日間で、11ルート確保。

一刻も早く。

がれきを処理し、段差を直し、救命・救援ルートを切り開いた。

負傷者の命を救い、被災者に緊急物資を届けるルートを確保せよ。

被災直後に立案された「くしの歯作戦」のもと、道路の「啓開」が実施された。啓開とは、切り開くこと。県の職員、陸上自衛隊、地元の高齢者、国土交通省 東北地方整備局の職員たちが丸となって、がれきの中を突き進んだ。未曽有の津波被害が出されている中、「一人でも多くの命を助けるため」という思いで懸命の作業が続いた。それにより、翌日の12日には11ルート、15日には15ルートが開かれ、救急車や重機、自衛隊などの緊急車両が通行可能に。

匠業チームも被災地に入ることができ、支援物資なども届けられることとなった。



復興「くしの歯」作戦
岩手県 陸前高田市

堤防が、緊急輸送路に。

刻も早く



道路兼用河川堤防の復旧を最優先し、緊急物資輸送などが実現。
北上川河口部(石巻市高谷地区)では、道路兼用の河川堤防が1,100mにわたって浸出した。そのため集落が孤立し、救援活動などが行えない状態に陥った。まずはクマ1台が通れる程度の確保を最優先に復旧に臨んだ。3月14日、暫定1車線での通行が可能に。これにより、緊急車両の通行や緊急物資輸送が実現し、被災者支援に結びついた。また、同様の被災を受けた道路兼用の河川堤防も、交通確保を最優先に復旧活動が行われた。



国土交通省 東北地方整備局
指定1車線が供用
2011.3.14

ポンプ車投入、排水量500万³m。

刻も早く



国土交通省 東北地方整備局
被災した仙台空港
2011.3.13

仙台空港とその周辺にポンプ車を集中投入、早期に一部復旧へ。
東北の空の玄関として重要な仙台空港も巨大津波に襲われた。空港ビルは中2層まで浸水。1階部分は増速波浪に、空港内はもとより沿岸部周辺の広いエリアが浸水し、甚大な被害を受けた。国土交通省では空港の再生に向け、排水ポンプ車を全国から集中投入。3月17日よりポンプ車25台、24時間体制で排水を開始した。ポンプ車の台数は延べ約250台・日にも及び、排水した水の量は約500万³mに達する。これは25mのプール、14,000杯分にも相当する。そして被災から約1か月後の4月13日、臨時便での一部就航が開始された。



国土交通省 東北地方整備局
仙台空港・排水開始
2011.3.17

国土交通省 東北地方整備局
復旧の進む仙台空港
2011.3.24

3月23日(水)までに主要10港、接岸可能。

刻も早く



被災3日後から、港湾内の障害物を取り除く航路啓開を開始。
3月13日夕刻の津波警報・注意報の解除を受け、翌14日早朝から海に漂出、または沈んだコンテナやクルマ、漁網などの回収を行う航路啓開が開始された。被災地への支援を第一に、宮古港、釜石港、そして東北最大の港湾である仙台港を優先して啓開。その後、3港以外の主要な港湾にも展開された。被災後5日目となる16日には、釜石港に緊急物資が入港。23日までに被災10港で、暫定の航路が確保され、海上からの緊急物資の搬入が可能となった。また、震災から10日目となる21日には、仙台港にオイルタンカーが入港し、燃料を積み替えた燃料不足が緩和された。



国土交通省 東北地方整備局
緊急支援物資の入港
2011.3.16



国土交通省 東北地方整備局
オイルタンカーの入港
2011.3.21

3月13日～15日までの入港船舶
3月13日～15日 船名 総トン数
3月14日～15日 船名 総トン数
3月16日～17日 船名 総トン数
3月18日～19日 船名 総トン数
3月20日～21日 船名 総トン数
3月22日～23日 船名 総トン数
3月24日～25日 船名 総トン数
3月26日～27日 船名 総トン数
3月28日～29日 船名 総トン数
3月30日～31日 船名 総トン数

支えに。

被災者や市町村への支援の記録

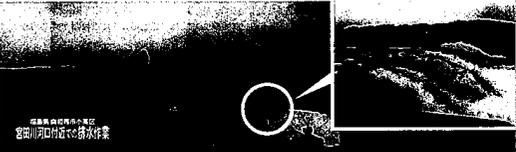
途絶えた通信を救った、衛星通信車などの通信機器。それは、県、市町村とのホットラインになった。

被災市町村の緊急の求めに応じ、おむつ、布団から燃料、洗濯機、仮設ハウスまで物資も調達。

整備局のICPが、市町村のICPと連携し、被災地の声を伝えた。なにより被災者のために、届けるべく支援が行われた。

国土交通省 東北地方整備局

搜索のため、 24時間態勢で 緊急排水。



行方不明者の搜索のため、排水ポンプ車120台出動。
津波被害による浸水は、岩手、宮城、福島県の各所及び、行方不明者の捜索を進めるため、早急な排水が必要だった。そこで、国土交通省が全国に配備している排水ポンプ車から、120台を集中投入、照明車などの災害対策車両も展開した。3県の16市町、67箇所から、市町村支援に派遣されていたリエン(災害対策現地情報連絡員)を通して要請を受け、即時に各自自治体へ出動。24時間態勢で緊急排水を行った。



巨大津波から逃れた岩手県の鶴住居小学校と釜石東中学校の児童・生徒たち。その避難先となったのは三陸縦貫自動車道 釜石山田道路だった。

仙台東部道路や福島県の国道6号相馬バイパスは、盛土が防潮堤の役割を果たした。また、宮城県の釜石市寺島地区の住民は、阿武隈川の堤防の上に避難し難を逃れた。

さらに、津の戻りでは多くの避難者を受け入れ、水や食料、情報などを提供し、支援物資の中間場所としても利用された。命を守り、被災者を支えた動きがそこにあった。

役割。

道路や堤防などの果たした役割の記録

国土交通省 東北地方整備局

『命の道』 として機能。

役割。

子どもたちが難を逃れた、釜石山田道路。

高台にある釜石山田道路(三陸縦貫自動車道)が避難先となり、津波発生後約70分以内の間に旧釜石第一中学校体育館に避難。

大津波からの津波により、岩手県の鶴住居小学校、釜石東中学校も被災。だが、生徒ら約570人は、高台にある三陸縦貫 釜石山田道路に逃れ、全員が助かった。しかも、その道路を使って避難所の旧釜石第一中学校の体育館へと移動もできた。さらに、この釜石山田道路は迂回路として人や物資の移動に利用され、地域の孤立を回避している。

子どもたちの命を救った、避難階段。
岩手県の小本小学校は津波により浸水したが、児童ら88人は学校から高台の国道45号に続く避難階段を遡り、同一避難所へ避難できた。この階段は、震災2年前の2009年に設置されたばかり、まさに、命の道となった。

岩手県岩手町国道45号
130段の避難階段 (2019.12)

釜石県 小本小学校
避難階段の様子 (2019.3)

高速道路が 防潮堤。

役割。

仙台東部道路が、市街地への津波の流入を抑えた。
仙台市を含む宮城県の中間部は平地のため、津波から約4kmまで津波が逼った。しかし、盛り土構造(7~10m)の仙台東部道路によって、市街地への津波や瓦礫の流入が抑制された。仙台市の東部を北上するこの仙台東部道路が、防潮堤の役割を果たしたわけだ。また、仙台若林JCTと名取ICの間では、津波から逃げる高台として約230人が避難している。福島県相馬市の国道6号相馬バイパスでも、盛土区間が防潮堤の機能を果たし、津波の浸水を防いでいる。

海津障

津波浸水
3.7m

国土交通省
2011.3.12

4県31市町村へ 派遣。

支援に。



東北地方整備局を代表する
東北地方整備局職員
2011.3.22

派遣された連絡要員が、県や市町村をサポート。
被災した県や市町村に国土交通省の職員を派遣し、連絡員として県や市町村の中で働いた。リエーン(災害対策総務課連絡要員)と名付けられた場合は、自治体のニーズを用いて、さまざまな支援機関との調整を実施。県と県との調整や法律の解釈にだけ、災害対応に求められる自治体職員に代わり、市町村との片側としてサポート。リエーンは4県と31の市町村、自衛隊に派遣され、3月23日のピーク時には96人に、災害発生直後から6月30日まで、延べすると3,916人にも達した。




被災自治体に、 通信機器を 配備。

支援に。

被災した市町村の途絶した通信を衛星通信車などが確保。
被災者にとって命ともいえる通信が断絶状態に陥った。宮城県の前3郡町などのように市役所そのものが被災し、行政機能を喪失した自治体も出現した。この被災日から東北交通では、全国の地方整備局から災害対策車を配備し、4日までに16自治体に送り込んだ。4月15日のピーク時には19台を配備。これによりすべての市町村との通信が確保され、被災状況の把握から支援物資の買取りまで自治体の声が届くこととなり、被災者への支援に繋がった。



各地から集結した
災害対策車

ヤミ屋の オヤジ。

支援に。

所管にとらわれない、垣根を越えた物資調達が行われた。
被災された市町村長あてに東北地方整備局長からの一連の手紙が、派遣されていたリエーン(災害対策総務課連絡要員)から手渡された。そこには、自分を「ヤミ屋のオヤジ」と呼んで何でも買いつけてほしい、と書かれていた。すでに「国土交通省の所管事項以外のことでも援助します」と約束していた。それから、多くの市町村長から連絡をいただけるようになり、異例の物資調達が始まった。仮設ハウス、仮設トイレ、燃料などのほか、生活用品から雑貨まで、あらゆる物資を用意した。

派遣した要員

市町村支援要員の例

市町村	派遣人数	派遣期間
宮城県	12	3月23日～4月15日
岩手県	8	3月23日～4月15日
秋田県	5	3月23日～4月15日
山形県	6	3月23日～4月15日
福島県	7	3月23日～4月15日
茨城県	4	3月23日～4月15日
栃木県	4	3月23日～4月15日
群馬県	17	3月23日～4月15日
埼玉県	9	3月23日～4月15日
千葉県	1	3月23日～4月15日
東京都	1	3月23日～4月15日
神奈川県	1	3月23日～4月15日
静岡県	1	3月23日～4月15日
愛知県	1	3月23日～4月15日
岐阜県	1	3月23日～4月15日
富山県	1	3月23日～4月15日
石川県	1	3月23日～4月15日
福井県	1	3月23日～4月15日
滋賀県	1	3月23日～4月15日
京都府	1	3月23日～4月15日
大阪府	1	3月23日～4月15日
兵庫県	1	3月23日～4月15日
奈良県	1	3月23日～4月15日
和歌山県	1	3月23日～4月15日
徳島県	1	3月23日～4月15日
香川県	1	3月23日～4月15日
愛媛県	1	3月23日～4月15日
高知県	1	3月23日～4月15日
福岡県	1	3月23日～4月15日
佐賀県	1	3月23日～4月15日
長門県	1	3月23日～4月15日
熊本県	1	3月23日～4月15日
大分県	1	3月23日～4月15日
鹿児島県	1	3月23日～4月15日
沖縄県	1	3月23日～4月15日

市町村の要望への対応

※ 被災発生当日(3/11)～3/21日 | 平均被災発生率(%)




被災市町村のSOS HPで全国へ発信。

支援に。

通信手段を失った市町村にホームページを開放。
被災した市町村では、通信手段が確保されなかった状況に、被災地では物資不足に陥り、不自由な生活を強いられているに違いなし。そこで、国土交通省 東北地方整備局では、本格的な通信手段が確保するまでの間、ホームページ上に「被災した市町村のための臨時掲示板」を開設した。物資調達に関するニーズなどを発信する掲示板として20市町村が利用、切実な要望が掲載され、全国からの支援物資提供につながった。

東北地方整備局HP

被災市町村の臨時掲示板

掲示板の表示例(2011.3.21)

市町村	品名	数量	備考
宮城県	仮設トイレ	100	
宮城県	仮設ハウス	50	
宮城県	仮設キッチン	20	
宮城県	仮設風呂	10	
宮城県	仮設洗面台	10	
宮城県	仮設トイレ	10	
宮城県	仮設ハウス	10	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	
宮城県	仮設ハウス	5	
宮城県	仮設キッチン	5	
宮城県	仮設風呂	5	
宮城県	仮設洗面台	5	
宮城県	仮設トイレ	5	

住民を守り、 支えた堤防。

役割



住民が津波から逃れた寺島堤防、公民館への避難路となった中下堤防。
宮城県岩沼市の寺島地区は阿武隈川の河口部に位置する平地のため、近くに高い場所がない。大津波直撃が懸念されたとき、住民約50人は阿武隈川の寺島堤防に避難した。海からの津波と川を遡上する津波との狭み撃ちにあったが、波が堤防を越えることはなかった。住民は一人も犠牲者を出すことなく、堤防を経由して岩沼市民会館へと避難することができた。
また、秋田市野島地区の住民約8人は、阿武隈川河口付近にある野島新築集会所の2階に避難し、その後、中下堤防を渡って中下公民館に避難した。
どちらの堤防も耐震対策がなされており、地震と大津波に耐え、大きく被災することがなかった。



防波堤が 津波高低減。

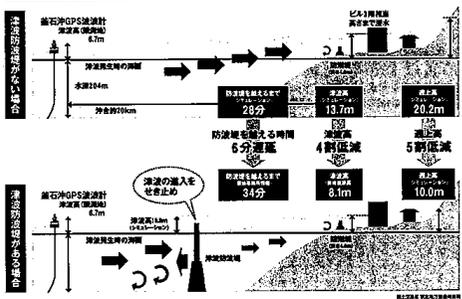
役割

釜石港湾口防波堤により、津波の高さは約4割低くなっていた。

釜石湾の入り口に順と北から伸びる2本の湾口防波堤。湾の開口部を狭くする900mの北堤と長さ670mの南堤があったが、巨大津波に比べて設置された。だが、被災したとはいえ、この堤防により津波の高さが抑えられ、海岸側の防波堤を越える時間を遅らせ、遡上する高さを低減させている。
釜石港沖合のGPS波計のデータを用いて計算した結果、湾口防波堤がないと考えた場合の釜石湾奥部の津波高は13.7m、一方現地の実際の観測高は8.1mのため、湾口防波堤により津波高を約4割低減することができた。



防波堤有り/無で計算で比較



避難の駅となった、 道の駅。

役割

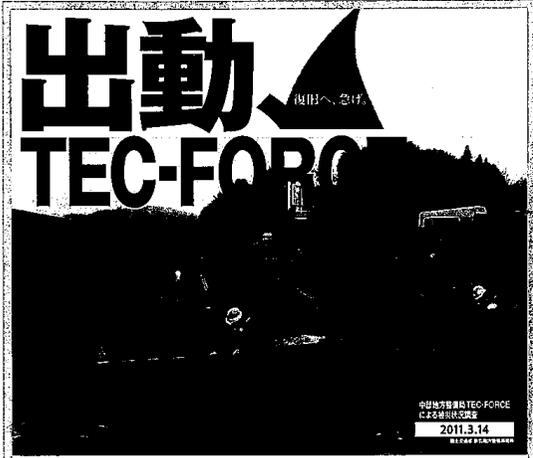
道の駅では避難者を受け入れ、水や食糧、情報などを提供。
東北管内の道の駅では、被災直後から避難の多くの避難者を受け入れた。水や食糧の提供をはじめ仮設トイレ、通行規制などの情報提供も行っている。また、支援物資の中継場所や救援活動に関わる人の集合場所、休憩場所にも利用された。
宮城県大崎市の道の駅「三本木」や岩手県宮古市の道の駅「たろう」では、今回の震災以前に防災拠点として整備されており、その機能が発揮している。



復旧へ 急げ

応急復旧への取り組み記録

土木技術の
プロがいる。道
の駅のプロがいる。
被災は強い人。助け
を求む専門家もいる。
国土交通省の地方整備局
から、さまざまな分野のプロ
が参加した。その数もが、災害対
応を速くした。専門知識を持つ
スペシャリストだ。
災害発生の日には8名の先遣隊が3日
からは20人以上が被災現場に入り調査を
進めた。それにより、道路の補修や仮設の組
み立てなどを速く進め復旧が可能となった



出動、復旧へ、急げ TEC-FORCE

中国地方新築 TEC-FORCE
による緊急復旧工事
2011.3.14

200名以上が被災地に入り、被害状況を調査。
 竜巻の巻いた道路、崩落した法面、落下した橋、崩れた津など、被災した各所に国土交通省の全国の地方整備局から集結した災害対応のスペシャリストが急行。
 TEC-FORCE(テックフォース)と呼ばれるこの緊急災害対応推進連隊は、2日後には200名以上が被災現場に入り、被害の状況を調査。この迅速な対応が早期応急復旧を可能とした。
 また、このTEC-FORCEは自治体への支援隊としても派遣され、被災地域の電線から排水ポンプ車による排水作業、自衛隊などの訓練、支援物資や機材の取り次ぎ、調査など広範囲にわたる活動を行った。



近畿地方新築 TEC-FORCE
による緊急復旧工事
2011.3.14



近畿地方新築 TEC-FORCE
による緊急復旧工事
2011.3.15



落下した橋、仮橋により、復旧へ、急げ 急行

中国地方新築
国道45号 気仙大橋
による緊急復旧工事
2011.7.10 交通開放

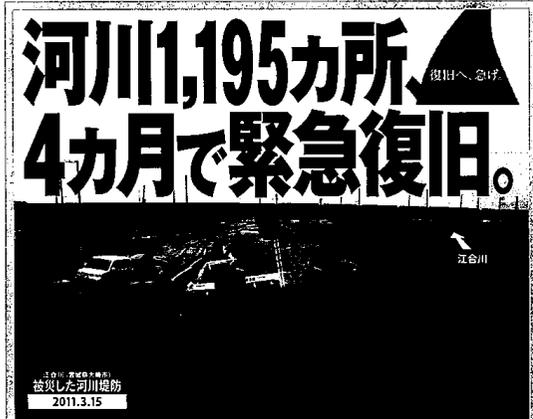
一日も早い交通確保へ、仮橋による応急復旧を展開。
 太平洋沿岸を走る国道45号は、巨大津波によって各所で寸断され、橋桁が流出するなど大きなダメージを受けた。道路管轄が完了した所から応急復旧を進め、橋梁流出箇所も迂回措置や仮橋による対応が展開された。仮橋の高さ210.6mとなった気仙大橋(岩手県陸前高田市)も、河川の浸食作業後に仮橋本体の工事に上がり、わずか6日で完成。7月10日に2車線での交通確保が可能となった。
 応急復旧が早かった理由には、震災直後から建設業者が作業に入ったこと、復旧対策に現場での作業方法の検討を活かし、応急自立橋の設置など技術的に工夫されたことなどがある。



中国地方新築
国道45号 二子一浜橋
による緊急復旧工事
2011.3.15



中国地方新築による応急復旧
国道45号 二子一浜橋
による緊急復旧工事
2011.4.4 交通開放



河川1,195カ所、復旧へ、急げ 4カ月で緊急復旧。

中国地方新築
被災した河川堤防
2011.3.15

原形をとどめない河川堤防など、緊急復旧工事を実施。
 巨大地震・津波は河川にも大きな被害をもたらした。国土交通省 東北地方整備局管内の河川では、5水系9河川で堤防や橋門・橋脚などの施設1,195カ所が被災した。そのため被災直後から応急復旧に取り組み、二次災害を防止すると共に、特に被災の大きい29カ所は堤防盛土やブロック築りを補修「緊急復旧工事」を実施。4月2日の江合川の工事を完了をはじめとして、7月11日までに全ての緊急復旧工事が完了した。



中国地方新築
緊急復旧完了
2011.4.2



応急復旧により、復旧へ、急げ 海上物流回復。

中国地方新築
仙台臨港
2011.4.18 > 2011.6.23

被災港湾の取扱貨物量が、9月には対前年比70%まで回復。
 電力確保に必要な燃料、資源に欠かせない鋼材、鉄鋼をはじめとする製造業の原材料や製品など、東北への海上輸送は極めて多い。日用雑貨などもコンテナ船で運ばれており、海上輸送は地域の生活や経済と密接に関わっている。そのため、一日でも早い港湾機能の回復に向け、早期に応急復旧工事を実施。震災から半年後の9月には、中断されていた海上物流が復活し、取扱貨物量は対前年比70%まで回復した。



中国地方新築
小名浜港
2011.4.19 > 2011.4.27



津波 てんでんこ。

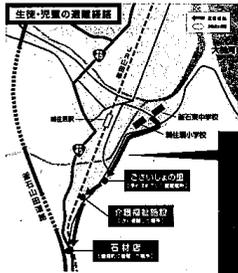
明日のために。

いざという時、自主的な判断、日頃からの訓練、備えが大切。津波「てんでんこ」とは、三陸地方に残る言い伝えで、津波が来たら親子でんでんぼらばらになっても、かまわず高台へ逃げろということ。

津波襲来時、岩手県の釜石中学校と隣接する釜石小学校の生徒・児童約570人は、直ちに避難。中学生が小学生の手を取り、より安全な場所へと避難し、全員が助かった。

最初は予め避難先に指定されていた「ごいしよの里」へ避難。しかし、施設裏の壁が割れている様子などを見てさらに内閣閣僚の介護福祉施設へ逃げた。その後、そこにも津波が迫ってきたため、最終的には国道45号方面の高台へ避難した。

現在は、「てんでんこ」の教訓とともに、防災教育や避難訓練で培われた「想定にとらわれない」その状況下で最善を尽くすとの教訓をリアルに実践し、主体的な行動により自らの命を守り抜いた。それは日頃の防災教育や訓練の成果が発揮された結果であり、災害に備えることの大切さを教えている。



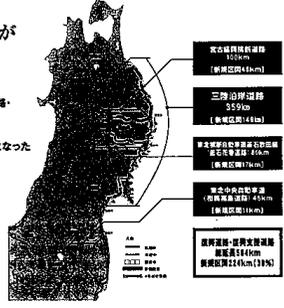
大津波警報の中、避難する釜石中学校と隣接する釜石小学校の生徒・児童たち

東北の元気へ 復興への道、始動。

明日のために。

復興へと導く「リーディングプロジェクト」が始まった。

広域的で災害に強い連絡ネットワークは、産業を支え、地域経済を活性化させる。災害時には、避難路として、あるいは救援道路・緊急輸送道路として機能する。一日でも早く、被災地域が元気を取り戻し、安心して暮らせるように、関係機関が一丸となったプロジェクトがスタートした。



復興道路開工式 2011.11.20

河川・海岸堤防の 本格復旧に着手。

明日のために。

宮城県を、防災面から支える本格復旧工事。河川堤防については、2011年11月1日から12月期において本格復旧工事に着手した。また、岩手、宮城、福島県の海岸線数は総延長300キロに及び、うち約180キロが被災。特に被害の大きかった仙台湾南部海岸は、宮城県知事からの要請を受け、関係者である県が代行して工事を実施することとなり、被災3県では初めての本格復旧工事に着手した。堤防の高さは、数十年から百数十年に一度の発生が予想される津波を想定し、7.2メートルに設定。この復旧工事は、沿岸5市町(仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町)の復興を防災面から支えることとなる。



仙台湾南部海岸 堤防復旧開工式 2012.1.29



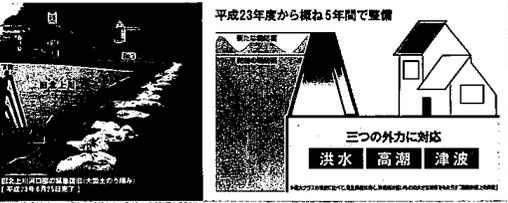
工事開始式 2012.1.29

復興に向け、河口部堤防を整備。

明日のために。



海岸堤防やまちづくりと一体となった河口部の堤防を整備。北上川の河口部に位置する宮城県石巻市をはじめ、一級河川の河口部では、市街地まで津波が押し寄せ、さらに広範囲で地盤沈下が発生したため、まちは壊滅的な被害を受けた。このため、宮城県沿岸域にある5つの一級河川の河口部では、震災後直ちに河川堤防の緊急復旧を行った。また、河口部の堤防の本格復旧に向け、新たな海岸堤防と整合を図り、洪水、高潮、津波の3つの外力に対応する堤防高を決定した。今後、被災地の復興に向け、沿岸自治体の復興計画と整合を図りながら、平成23年度から概ね5年間で河口部の堤防を整備する。

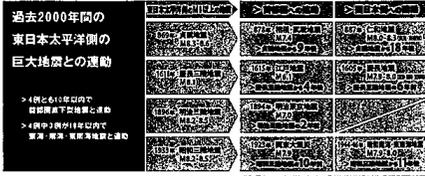


平成23年度から概ね5年間で整備 三つの外力に対応 洪水 高潮 津波

巨大地震の 今後の可能性。

明日のために。

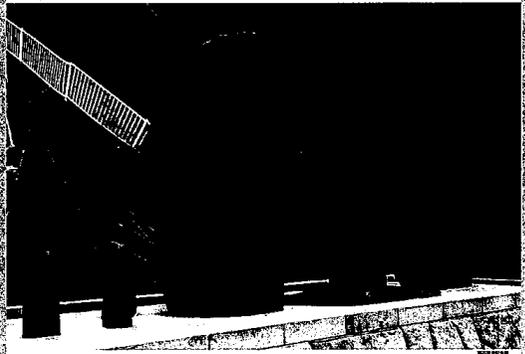
東日本大震災に連動して、巨大地震の発生が予想される。今週の大震災を震源とした巨大地震は巨大津波を発生させ、青森県から千葉県までの太平洋沿岸に大きな被害をもたらした。この地震は歴史的に見ても連動すると見られ、首都圏直下型、東海・南海・東南海地震の発生が予想されている。



子へ、孫へ 後世へ伝える。

明日のために。

地震と津波の恐ろしさを語り継ぎ、後世に伝えていきたい。この写真は岩手県釜石市両石町の国道45号線沿いに立つ石碑。津波の恐ろしさを伝えるもので、中央と右側の2基は明治28年(1896年)、左の1基は昭和8年(1933年)の碑だ。マグニチュード9の巨大地震、その恐ろしさを、その地震から発生した巨大津波による被害の悲惨さ。私たちは、この災害を忘れてはならない。恐ろしい体験を教訓として子や孫に語り継ぎ、後世に残さなければならない。未来の人々を驚かせないために。



2012 年度（平成 24）年度

東北学院大学宗教活動報告

2012(平成24)年度東北学院大学宗教活動報告

◇教員組織

宗教部長	佐々木哲夫
書記	野村 信
土樋 担当	佐藤 司郎、マーチー、D.N.、出村みや子
泉 担当	野村 信、村上みか
多賀城担当	北 博、原田浩司
大学オルガニスト	今井奈緒子
キリスト教文化研究所長	出村みや子
総合人文学科長	原口尚彰

◇大学礼拝

月～土曜日	10時25分～10時45分(土樋朝、泉、多賀城)
水曜日	19時35分～19時55分(土樋夜)
月曜日	19時30分～20時00分(泉女子寄宿舍)
火曜日	19時30分～20時00分(泉男子寄宿舍、旭ヶ岡寄宿舍)

年間総出席者数

	2012年度			2011年度			2010年度		
	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋・朝	26,593	181	147	23,034	168	137	15,540	180	86
泉	61,049	181	337	57,805	168	344	63,104	180	351
多賀城	40,629	181	224	39,463	166	238	24,007	182	132
土樋・夜	1,528	31	49	1,484	28	53	2,091	32	65
総計	129,799	574	226	121,786	530	230	104,742	574	182

〔備考〕・春季・秋季特別伝道礼拝、大学クリスマス礼拝を含む。

・平均値の小数点は四捨五入。

大学礼拝

総回数	657回〔3キャンパス(566回)・寄宿舍(91回)〕
外部(牧師)	299回
学内	358回

学内内訳	
理事長、大学長、キリスト者教員など	67回
宗教部関係者	309回
宗教部関係者内訳	
宗教部長	37回
北博大学宗教主任	30回
出村みや子大学宗教主任	29回
村上みか大学宗教主任	29回
野村信大学宗教主任	32回
佐藤司郎大学宗教主任	26回
原田浩司大学宗教主任	29回
原口尚彰総合人文学科長	29回
佐々木勝彦総合人文学科	27回
マーチー, D.N.	30回
今井奈緒子大学オルガニスト	4回
聖歌隊	8回

◇春季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

日 時 2012年5月9日(水) 10時25分～11時20分 泉 (参加者 750名)
5月10日(木) 10時25分～11時20分 土樋朝 (参加者 722名)
説教者 吉岡康子 青山学院女子短期大学宗教主任・准教授、日本基督教団 吉祥寺教会牧師
聖書箇所 新約聖書 マルコによる福音書 第4章35節～第5章20節
説教題 「今こそ、向こう岸に渡ろう」

日 時 2012年5月9日(水) 10時25分～11時20分 多賀城 (参加者 657名)
5月9日(水) 19時35分～20時30分 土樋夜 (参加者 59名)
説教者 焼山満里子 東京神学大学准教授
聖書箇所 新約聖書 ルカによる福音書 第10章25節～37節
説教題 「愛する、愛される」

◇秋季宗教教育強調週間 特別伝道礼拝

日 時 2012年10月2日(火) 10時25分～11時20分 泉 (参加者 515名)
10月3日(水) 10時25分～11時20分 土樋朝 (参加者 282名)
説教者 渡部 信 財団法人日本聖書協会総主事
聖書箇所 新約聖書 テモテへの手紙二 第3章16節～17節
説教題 「聖書は現代に語り出す」

日 時 2012年10月3日(水) 10時25分～11時20分 多賀城 (参加者 412名)
10月3日(水) 19時35分～20時30分 土樋夜 (参加者 49名)
説教者 島先克臣 財団法人日本聖書協会 翻訳部主事補
聖書箇所 旧約聖書 イザヤ書 第65章17節～25節
説教題 「大地回復の希望」

◇第24回泉キャンパスクリスマス

日 時 2012年12月7日(金) 18時30分～
地震により中止

◇大学クリスマス

日時・場所 2012年12月13日(木)10時25分 泉キャンパス礼拝堂 (参加者 408名)
" 16時30分 ラーハザ-記念東北学院礼拝堂 (参加者 417名)
2012年12月14日(金)10時25分 多賀城キャンパス礼拝堂 (参加者 470名)
説教者 磯貝 曉成氏 (キリスト教学学校教育同盟・事務局主事)
説教題 『希望は東北から来る』(3キャンパス)
合唱 ヘンデル「メサイア」より抜粋
指揮 岡崎光治 (作曲家)
オルガン 今井奈緒子 教養学部教授 (大学オルガニスト)
独唱者 (バス) 熊木晟二 (声楽家)
(ソプラノ) 鈴木美紀子 (声楽家)
合唱団 グリークラブ、ヒムネンコール、キャロラーズ、宗教部聖歌隊、学生有志

◇第17回スプリング・カレッジ

日 時 2012年4月14日(土) 14時30分～19時00分
場 所 泉キャンパス礼拝堂(1階) 小礼拝堂・1号館(3階) 第1会議室
内 容 キリスト者等推薦入学生へのガイダンス
開会礼拝 佐々木哲夫宗教部長
挨拶 宗教部長
1) 年間宗教行事への参加について
2) 大学礼拝への出席について
3) 聖書研究会か聖歌隊のいずれかへの加入について
4) 出席教会の確定と報告について
5) その他(統一教会への注意など)
参加人数 学生38人、教職員10人(佐々木宗教部長、野村信、原口尚彰、北博、村上みか、
出村みや子、原田浩司、マーチー, D.N.、羽賀新一、坂本由香)

◇第 38 回サマー・カレッジ

日 時 2012 年 8 月 6 日 (月) ～ 8 日 (水)
場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル
主 題 「人間・大地・自然」(天地創造の神)
講 師 工学部教授 石川雅美先生、大学宗教主任 野村信先生、大学宗教主任 出村みや子先生
参加人数 学生 20 名、教職員 9 名 (佐々木宗教部長、野村信、北博、出村みや子、原田浩司、
マーチー, D.N.、今井奈緒子、羽賀新一、高橋秀行)

◇第 57 回教職員修養会

日 時 2012 年 8 月 30 日 (木) ～ 8 月 31 日 (金)
場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル
主 題 「聖書に聴く」
講 師 ロバート・ウイットマー氏 (道北クリスチャンセンター館長、社会福祉法人道北
センター福祉会理事長)
講 演 「今、わたしたちに何が求められているか」
懇 談 ・グループ懇談 (講師講演をめぐって)
全体懇談 『『東北文学』につどった人々』渥美孝子先生 (教養学部教授)
参加人数 教育職員 59 名、事務職員 56 名、他 3 名

◇キリスト者等推薦入学生との懇談会

日 時 2012 年 7 月 2 日 (月) 泉 参加人数 学生 32 名、教職員 7 名
2012 年 12 月 3 日 (月) 泉 参加人数 学生 29 名、教職員 6 名

◇礼拝奉仕者懇談会 (事務職員)

土 樋キャンパス 2012 年 5 月 21 日 (月) 13 時 00 分～ 13 時 20 分
参加人数 星宮望学長、斎藤誠副学長、佐々木哲夫宗教部長、他 20 名
多賀城キャンパス 2012 年 7 月 3 日 (火) 11 時 00 分～ 11 時 20 分
参加人数 星宮望学長、伊達秀文工学部長、他 18 名
泉 キャンパス 2012 年 6 月 3 日 (金) 11 時 00 分～ 11 時 20 分
参加人数 星宮望学長、野村信大学宗教主任、他 15 名

◇礼拝オルガニスト懇談会

日 時 2013 年 2 月 18 日 (月) 11 時 00 分～ 13 時 00 分
場 所 8 号館第一会議室
参加人数 29 名 (礼拝オルガニスト他)

◇礼拝司会者（牧師・宣教師）懇談会

日 時 2013年2月18日（月）18時00分～20時00分
場 所 仙台国際ホテル
参加人数 34名（牧師・宣教師他）

◇宗教部会

開催日 2012年4月12日（木）、5月10日（木）、6月14日（木）、
7月19日（木）、9月13日（木）、10月4日（木）、
11月8日（木）、
2013年1月18日（金）、2月18日（月）、計9回

◇大学宗教主任会

開催日 2012年4月12日（木）、5月10日（木）、6月14日（木）、
7月19日（木）、9月13日（木）、10月4日（木）、
11月8日（木）、
2013年1月18日（金）、2月18日（月）、計9回

◇事務打合せ

日 時 2012年11月20日（火）15時00分～17時00分
議 題 「2012年度補正予算及び2013年度予算案について」
場 所 泉キャンパス礼拝堂会議室
参 加 者 宗教部長、大学宗教主任、各キャンパス事務担当者

◇宗教部自己点検評価委員会

1回〔2012年度〕

日 時 【2012年7月5日（木）16時30分～17時30分】
主 題 「大学礼拝、特別伝道礼拝、大学クリスマス、泉クリスマス、礼拝奉仕者懇談会について」

2回〔2012年度〕

日 時 【2012年8月2日（木）16時30分～17時30分】
主 題 「宗教部会について（目標と達成のための改革提案）」

3回〔2012年度〕

日 時 【2012年9月13日（木）15時30分～16時00分】
主 題 「2012年度（前期）宗教活動について、2012年度（後期）宗教活動予定について」

4回〔2012年度〕

日 時 【2012年10月4日（木）15時30分～16時00分】
主 題 「2012年度（前期）宗教活動について」（再度）
「2012年度（後期）宗教活動予定について」（再度）

5回〔2012年度〕

日 時 【2012年11月29日（木）14時30分～15時30分】

主 題 「事務組織改変について」

「その他」

6回〔2012年度〕

日 時 【2013年2月28日（木）13時00分～14時00分】

主 題 「2012年度宗教活動について」

「2013年度宗教活動予定について」

◇第35回青山学院大学合同チャプレン会議（東京会場）

日 時 2012年7月28日（土）13時～29日（日）15時10分

場 所 青山学院大学青山キャンパス

主 題 「東日本大震災をめぐって」

発 題 者 発題Ⅰ原口尚彰（東北学院大学）、発題Ⅱ伊藤悟（青山学院大学）

参加人数 10名（佐々木宗教部長、野村信、北博、出村みや子、村上みか、原田浩司、
原口尚彰、マーチー、D.N、門脇邦知、羽賀新一、

◇宗教部研修会

日 時 2012年7月19日（木）15時50分～19時30分

場 所 仙台国際ホテル

発 題 Ⅰ「より良い礼拝のために」

Ⅱ「聖書研究会のあり方について」

発 題 者 発題Ⅰ 村上みか大学宗教主任

発題Ⅱ 原田浩司大学宗教主任

参加人数 9名

◇第17回キリスト者教員研修会

日 時 2013年1月18日（金）

場 所 仙台国際ホテル

主 題 「大学礼拝における説教を担当して」

発 題 者 教養学部地域構想学科 大澤 史伸 先生

経営学部経営学科 松村 尚彦 先生

工学部機械知能工学科 長島 慎二 先生

参加人数 教育職員15名、事務職員2名

◇宗教委員会（予定）

日 時 2013年3月11日（月）15：30～
場 所 土樋キャンパス 8号館 第1会議室

◇学長招待卒業生懇談会（予定）

日 時 2013年3月13日（水）12：00～13：00
場 所 土樋キャンパス 本館会議室
出 席 者 星宮望学長、佐々木哲夫宗教部長、宗教事務課職員
卒業生参加予定者 15名（予定）

◇聖書研究会

土 樋キャンパス：北 博 大学宗教主任 「讚美歌味聴」
出村みや子 大学宗教主任 「アウグスティヌスに学ぶ」
村上 みか 大学宗教主任 「ドイツ語聖書を読む」
「ルカによる福音書を読む」
原口 尚彰 総合人文学科長 「第一テサロニケ書を読む」
佐藤 司郎 大学宗教主任 「聖書に親しむ」
泉 キャンパス：佐々木哲夫 宗教部長 「読書会 V. フランクル『それでも人生にイエス
という』」
野村 信 大学宗教主任 「ヨハネによる福音書を読む」
原田 浩司 大学宗教主任 「キリスト教基礎講座」
多賀城キャンパス：長島 慎二 キリスト者教員 「聖書を読む」
原田 浩司 大学宗教主任 「キリスト教基礎講座」

◇宗教部聖歌隊

『宗教音楽の夕べ』（7月21日）合唱、音楽礼拝、各クリスマス礼拝、各演奏会等への奉
仕活動

◇『チャペル・ニュース』

120号「新入生歓迎号」、121号「春季特別伝道礼拝特集号」
122号「サマー・カレッジ・秋季特別伝道礼拝特集号」、123号「クリスマス 特集号」

◇『2012キリスト教活動のハンドブック』

2012年4月1日発行

◇『礼拝説教集』

第17号（2013年3月末日発行）

◇『宗教活動報告書』

第13号（2012年6月30日発行）

◇その他

礼拝堂管理、図書資料受入、調査回答

◇卒業記念礼拝

日 時 2013年3月26日（火）

説教者 佐々木哲夫 宗教部長

説教題 「地の塩、世の光」

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会報告書

第 14 号 2013 年 7 月 30 日発行

発行責任者	宗 教 部 長	佐々木哲夫
編集責任者	宗 教 部 長	佐々木哲夫
出 版 社	株式会社アクトジャパン	
問い合わせ先	東北学院大学宗教事務課	
〒 980-8511	仙台市青葉区土樋 1 の 3 の 1	
	電話 022 - 264 - 6428	